GeneXus™
Grow thru knowledge

GXflow X Evolution 2

セットアップガイド

2014 年 2 月

ジェネクサス・ジャパン株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田 2 丁目 27 番 3 号 五反田フロント
電話番号：03-6303-9381　FAX：03-6303-9980
http://www.genexus.jp

GeneXus™
GXflow™

GeneXus Japan Inc.
Copyright © 2014 GeneXus Japan Inc.　All rights reserved.

本書には正確な情報を記載するように努めました。ただし、誤植や制作上の誤記がないことを保証するものではありません。なお、**本書に記載されている画面はソフトウェアの更新などにより予告なく変更される場合があります。**ご了承ください。
本書に記載のその他の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。GeneXus Japan Inc. は他社製品の性能または使用につきましては一切の責任を負いません。

ジェネクサス・ジャパン株式会社
〒141-0031　東京都品川区西五反田 2 丁目 27 番 3 号 五反田フロント
電話番号：03-6303-9381　　FAX：03-6303-9980
http://www.genexus.jp

GeneXus GXflow™

目次

目次 3
はじめに 4
セットアップの流れ 5
アプリケーションのインストール 7
GXflow クライアントのインストール (SQL Server 以外のターゲット環境の場合) 7
レジストリ情報を変更する 11
GeneXus Protection Server のインストール 41
ライセンス請求 13
新規ライセンス請求 13
継続ライセンス請求 23
ライセンス取得 27
GXflow ユーザーのノミネート（登録） 29
ユーザーを 1 件ずつノミネートする 29
複数のユーザーを一度にノミネートする 31
ライセンスのアンインストール 33
ライセンスの移行 35
ライセンスの再発行について 39
付録：ネットワークプロテクションの設定例 40

GeneXus GXflow™

はじめに

本書では、GXflow X Evolution 2 を使用するために必要なセットアップ、ライセンスの請求・取得、クライアントユーザーのノミネート（登録）、およびライセンスの移行・アンインストール手順について説明しています。また、巻末には付録としてアプリケーションサーバーとは別のサーバーにライセンスを保有させる仕組み（ネットワークプロテクション）の例を記載しています。

GXflow をお使い頂く際には、ライセンス請求の前に注文書を弊社宛に郵送して頂く必要があります。弊社での注文書の確認前にライセンスの請求を行うと、ライセンスの発行が遅れる場合があります。なお、事前にユーザー登録された担当者以外のライセンスの請求は受け付けておりません。

GXflow のライセンスの転売は禁止されております。同一のお客様および組織変更などの場合を除き、ほかのお客様に変更／譲渡することはできません。ライセンスの請求・登録の際には必ず内容を確認し、ライセンスの取り扱いには十分に注意してください。

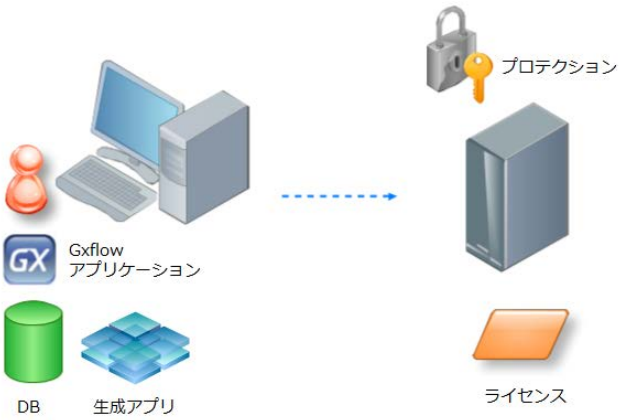
開発環境のセットアップの流れ

このセクションでは、GXflow X Evolution 2 および関連アプリケーションのインストール、ライセンス請求および取得（登録）、GXflow ユーザーのノミネート（登録）までの流れを簡単に説明します。
GXflow アプリケーションでは、ライセンス管理機構上、特定の処理の実行時、処理対象ユーザーが登録されているかどうかの照合を行います。このため、ライセンス管理用のサーバーには、クライアントユーザーのノミネートを行う、GeneXus Protection Server をインストールする必要があります。

GeneXus のライセンスシステムには、次の図のようなアプリケーションがインストールされているマシンにライセンスを保有させる「**ローカルプロテクション方式**」と GeneXus Protection Server にライセンスを保有させる「**ネットワークプロテクション方式**」があります。GeneXus および GXflow のご使用環境に応じて、Protection Server のインストール先を決定する必要があります。なお、本書では「**ローカルプロテクション方式**」によるライセンス管理を前提にしています。「**ネットワークプロテクション方式**」の設定については「付録：ネットワークプロテクションの設定例」を参照してください。

ローカルプロテクション方式

ネットワークプロテクション方式



GXflow ライセンスの運用方法が決まったら、次の手順でセットアップを行います。

1. 開発環境の準備
   - **GXflow X Evolution 2 Runtime Clients:** SQL Server 2005 または 2008 を使用する Java 開発環境および.NET 開発環境の場合、GeneXus X Evolution 2 のインストール時に**自動的にインストールされます。**それ以外の環境の場合、GXflow X Evolution 2 Runtime Clients のインストールが必要です。
2. GXflow ライセンスの請求および取得
   GeneXus Protection Server 内の「GeneXus License Manager」を使用し、GXflow ライセンスの請求および取得を行います。
3. 通常ライセンスのユーザーのノミネート（登録）
   GXflow には次のようなライセンス形態があります：
   - **通常ライセンス：**10～500 ユーザーを対象としています。GXflow のユーザーを登録してから使用する必要があります。登録できる**ユーザーの上限はご購入ライセンス数の範囲内**となります。
   - **コーポレートライセンス**：ユーザー数無制限のライセンスです。**ユーザーの登録は不要です。**

   ※本書では通常ライセンスのユーザーのノミネート方法について説明しています。

参考：「コーポレートライセンス」のユーザー数無制限の範囲は、1 つの Protection Server に限られます。複数の Protection Server を運用する場合には、複数のコーポレートライセンスまたは、ユーザー数に応じたライセンスが必要となります。

GeneXus GXflow™

開発環境の準備

C#および Java の SQL Sever*1 をターゲット環境とする場合、GXflow X Evolution 2 Runtime Clients（以後 GXflow クライアント）は GeneXus X Evolution 2 のインストーラからインストールされます。お使いのコンピューターに **GeneXus X Evolution 2 がインストールされている場合、「GXflow クライアント」をインストールする必要はありません。**それ以外のシステム（PostgreSQL、MySQL、Oracle など）をターゲット環境とする場合、GXflow クライアントを別途インストールする必要があります。また、GXflow を使用するユーザーの事前登録に必要な GeneXus Protection Server をライセンス管理用のサーバーにインストールする必要があります。このセクションでは、GXflow クライアントのインストール方法について説明します。

GeneXus X Evolution 2 のインストール方法ならびにシステム要件については、GeneXus X Evolution 2 インストーラに付属の「**GeneXus X Evolution 2 インストールガイド**」を参照してください。

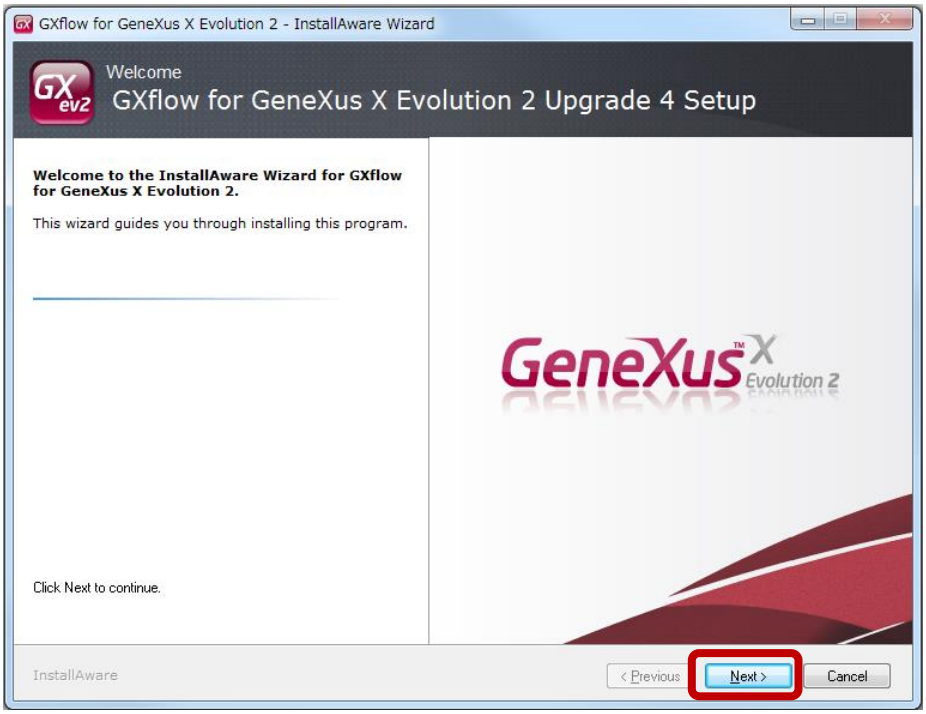
*1: SQL Server 2005 または 2008 を使用する Java 開発環境および.NET 開発環境

GXflow クライアントのインストール (SQL Server 以外のターゲット環境の場合)

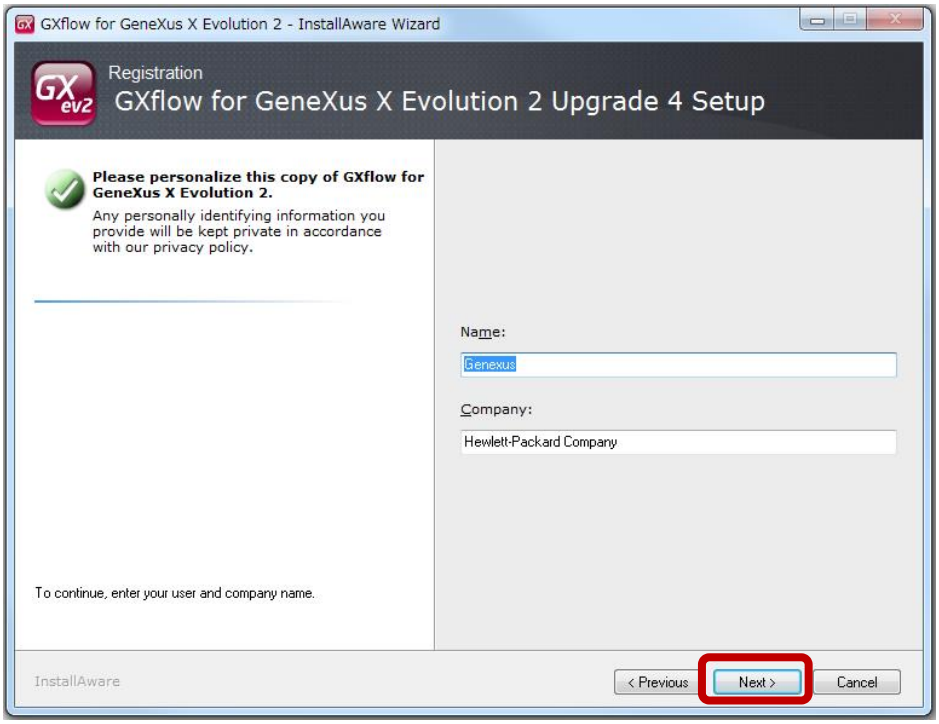
1. GeneXus Japan の Web サイト（http://www.genexus.com/downloads/products-jp?ja）からお使いの GeneXus と一致するバージョンの「Gxflow クライアント」をダウンロードします。
2. 「gxflowxev2uXX.exe」といった名前のセットアップファイルを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は右クリックして「**管理者として実行**」を選択します）。

重要：セットアップファイルの実行中に、「GeneXus X Ev2 Un がインストールされていません」といった内容の英文のメッセージが表示される場合、後述の「レジストリ情報を変更する」を参照し、記載の手順にしたがってください。

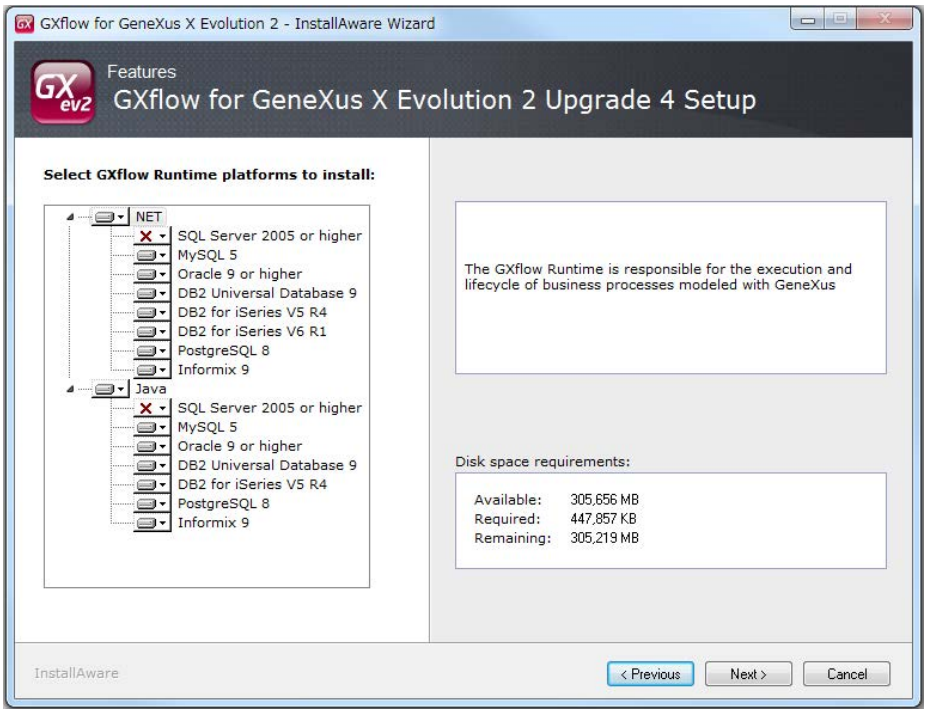
次のような画面が表示されます。



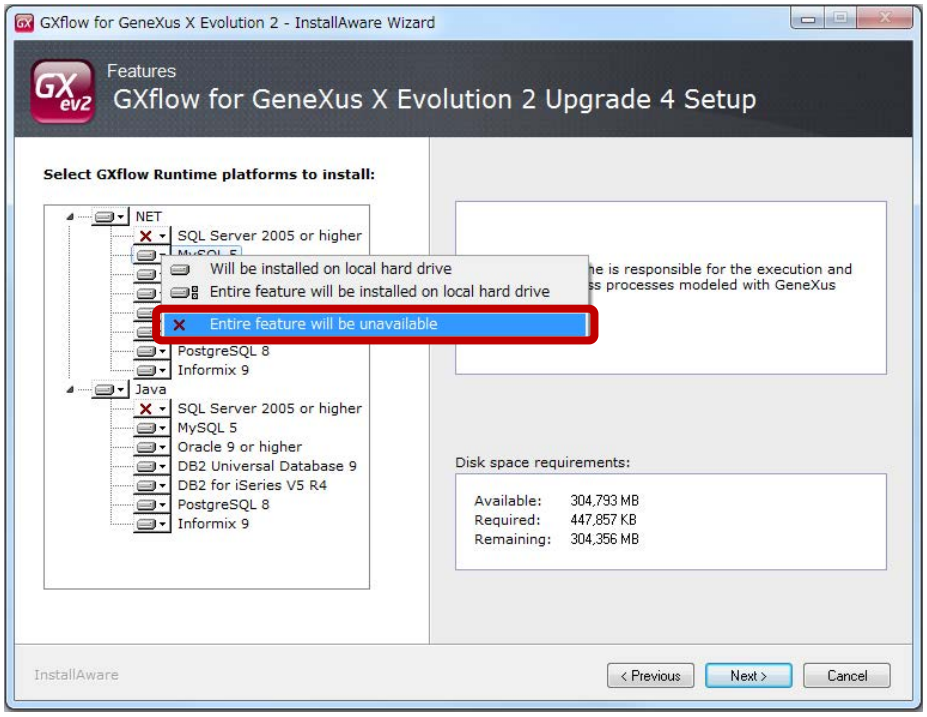
3. 「**Next**」をクリックします。情報登録画面が表示されます。
4. 「**Name**」フィールドに管理者の名前を入力し、「**Company**」フィールドに会社名を入力します。
5. 「**Next**」をクリックします。次のようなスタートメニューへの登録画面が表示されます。



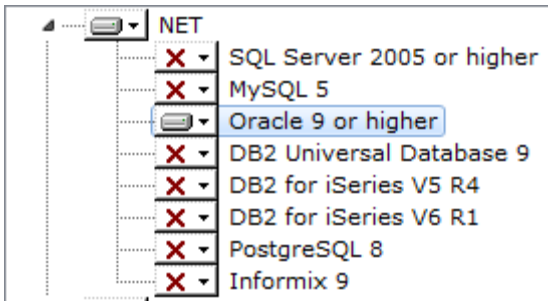
6. 「**Next**」をクリックします。次のような画面が表示されます。



7. 必要な実行環境のみをインストールする場合、左側の「**Select GXflow Runtime platforms to insatall**」セクションから不要な環境の名前の先頭にあるプルダウンメニューをクリックして、「**Entire feature will be unavailable**」を選択します。

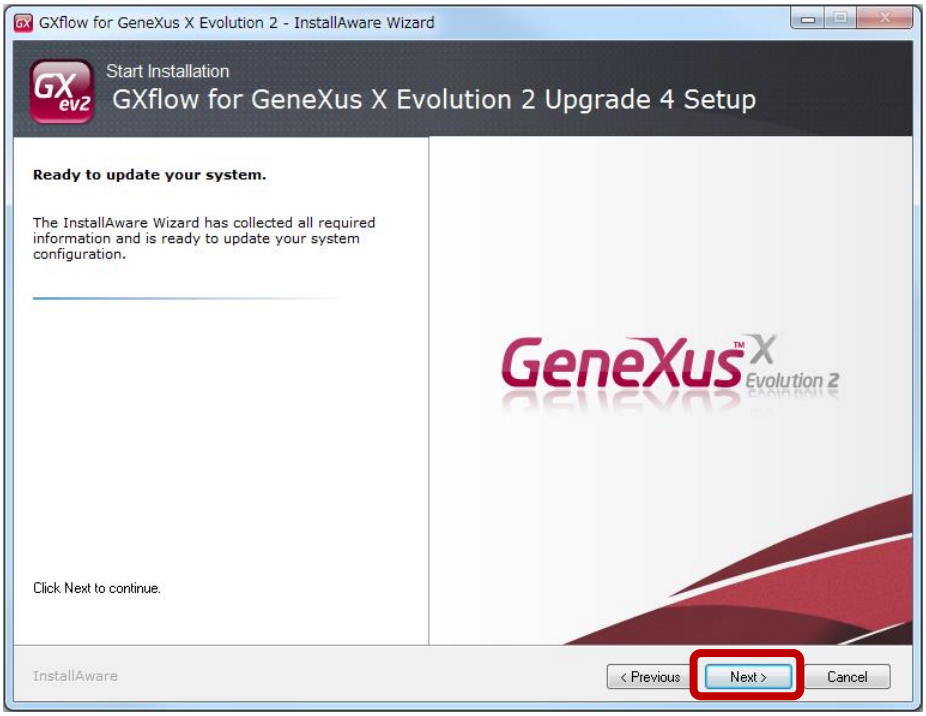


8. すべてのインストール不要な環境に対して手順 7 を行います。
先頭のアイコンが「ハードディスクドライブ」から「×」に変わります。



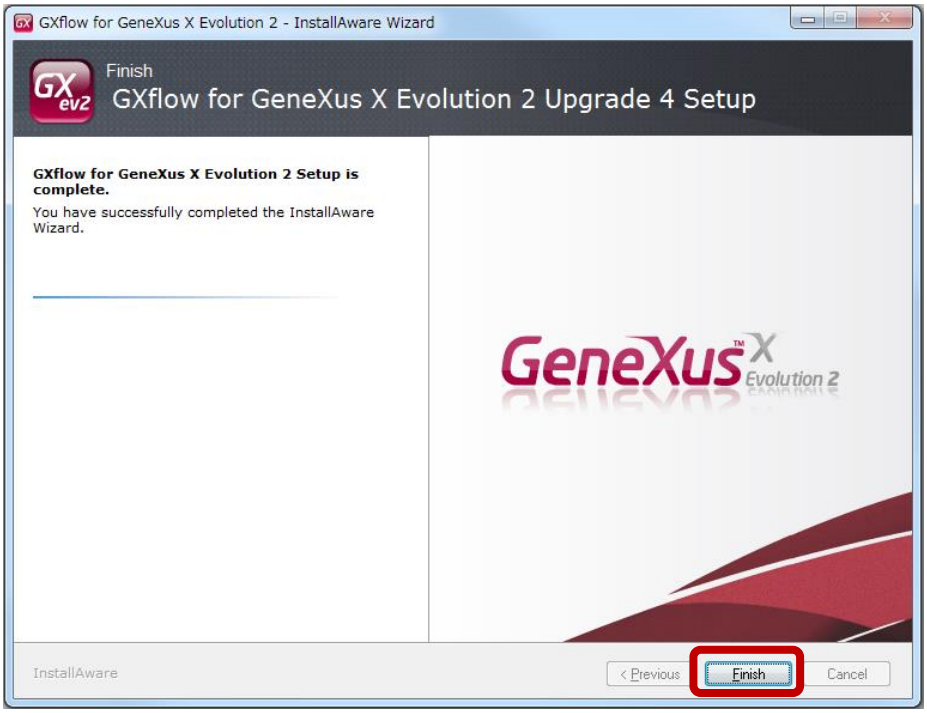
参考：左側の「**Select GXflow Runtime platforms to insatall**」セクションで不要な環境を選択せずに「Next」ボタンをクリックすると、.Net および Java の SQL Server 2005 および 2008 を除く実行環境がすべてインストールされます。

9. 「**Next**」をクリックします。次のようなインストールの準備が完了したという内容の画面が表示されます。



10. 「**Next**」をクリックします。インストールの進捗状況を示すプログレスバーが表示されます。

11. 次のようなインストールの完了を示す画面が表示されたら、「**Finish**」をクリックします。



これで GXflow クライアントのインストールは完了です。

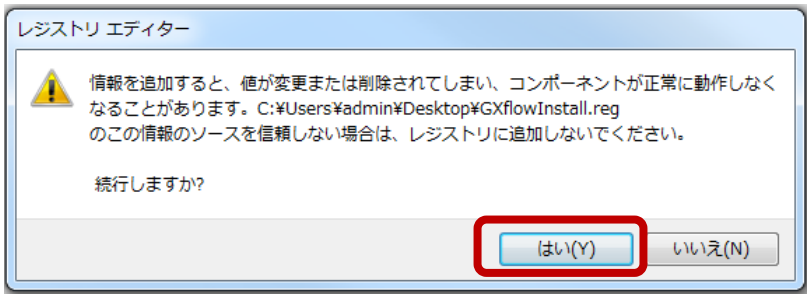
レジストリ情報を変更する

GXflow クライアントアプリケーションのインストーラの起動時に「GeneXus X Ev2 Un がインストールされていません」といった内容の英文のメッセージが表示される場合、次の手順にしたがってレジストリ情報を変更する必要があります。

1. 「GXflowXEv2Client」フォルダ内の「GXflowXEv2_Client.reg」をダブルクリックで開きます。

2. 「次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか？」といったウィンドウが表示されたら「**はい**」をクリックします。

3. 次のようなウィンドウが表示されます。内容を確認してから「**はい**」をクリックします。



注意：GeneXus X Evolution 2 のインストールパスが既定ではない場合、「GXflowXEv2_Client.reg」ファイルをテキストエディタで開いて、インストールパスの設定を変更する必要があります。「InstallDir」の右側には GeneXus X Evolution 2 のインストールパスを指定し、「Upgrade」右側にはお使いの GeneXus X Evolution 2 のアップグレード番号を入力します。

```
REGEDIT4

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥ARTech¥Setup¥GeneXus X Evolution 2]
"InstallDir"="C:¥¥Program Files (x86)¥¥Artech¥¥GeneXus¥¥GeneXusXEv2Un_JP"
"Version"="Release"
"Upgrade"="n"
"Build"="xxxxx"
```

これでレジストリの変更は完了です。前述の「GXflow クライアントのインストール (SQL Server 以外のターゲット環境の場合)」の手順にしたがって、GXflow クライアントをインストールしてください。

ライセンス請求

このセクションでは、GXflow ライセンスを新規に請求またはライセンスの使用期限を残した状態で継続（期限の延長）請求する手順について説明しています。また、オンラインとオフラインの 2 つの請求方法についても説明しています。

新規ライセンス請求

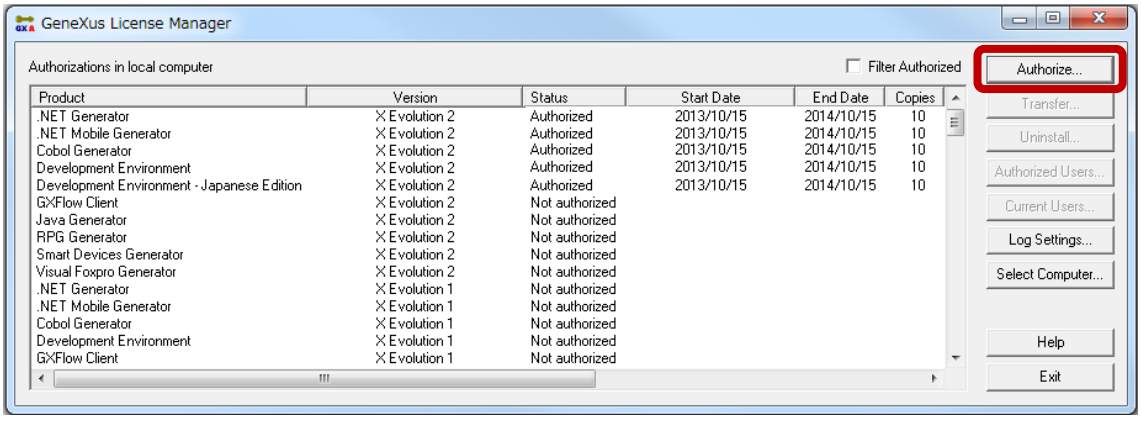
オンラインライセンス請求

次の手順にしたがって、オンラインで新規にライセンスを請求します。

重要：オンラインでライセンスを請求するには、インターネットの接続環境と GXtechnical のアカウントが必要です。インターネットの接続が有効であることを確認し、事前に GeneXus Japan の Web サイトでユーザー登録を行ってください。ユーザー登録の方法については、「**GeneXus X Evolution 2 インストールガイド**」の「**ユーザー登録**」セクションを参照してください。
また、お使いの環境によってはオンライン請求が利用できない場合があります。オフラインでライセンスを請求する方法については、後述の「オフラインライセンス請求」を参照してください。
なお、**コーポレートライセンス**の場合、**オフラインによるライセンス請求**のみとなります。

1. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

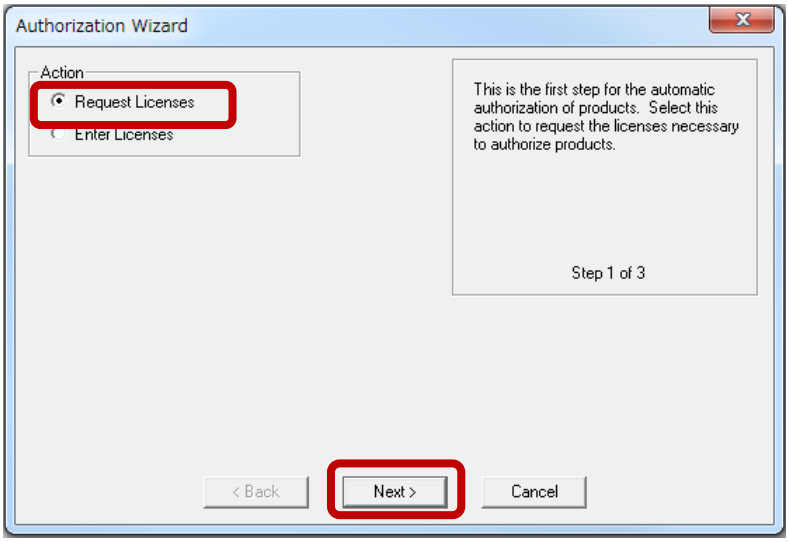
次のような画面が表示されます。この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



この画面に表示される「Status」には、次のようなライセンスの状態が示されます。

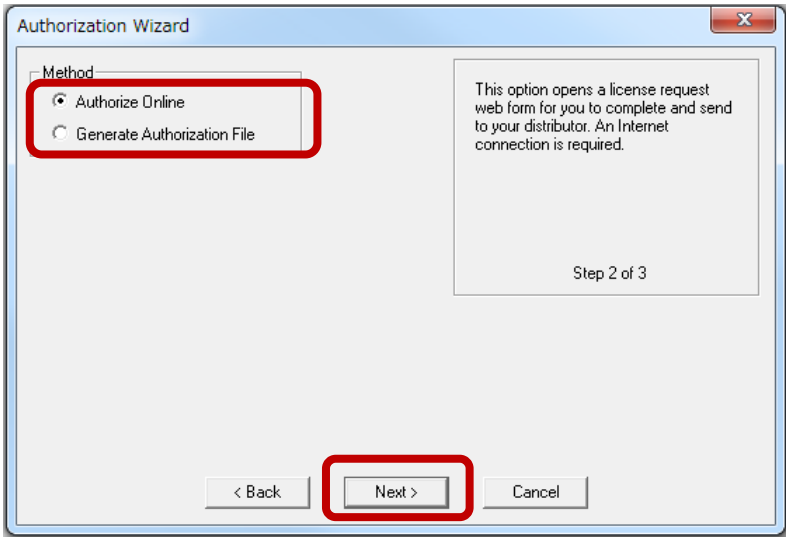
ステータス	説明
Authorized	現在オーソライズされています。
Not authorized	オーソライズされていません。
Uninstalled	インストールされていません。
Error	プロテクションエラー；日付の制限を超える（2038）ときなどに発生することがあります。
Suspended, data changed	プロテクションは中止されています。PC の日付を未来または過去の日付に変更した場合に表示されます。
Time Run out	ライセンスの有効期限が切れた場合に表示されます。
Runs Run out	オーソライズされた実行可能数の上限を超えた場合に表示されます。
Suspended, authorization data changed	ライセンスの情報を、正しく読むことができないため、中止されました。

2. 画面右上の「**Authorize**」ボタンをクリックします。ライセンスの請求または取り込みオプションが表示されます。

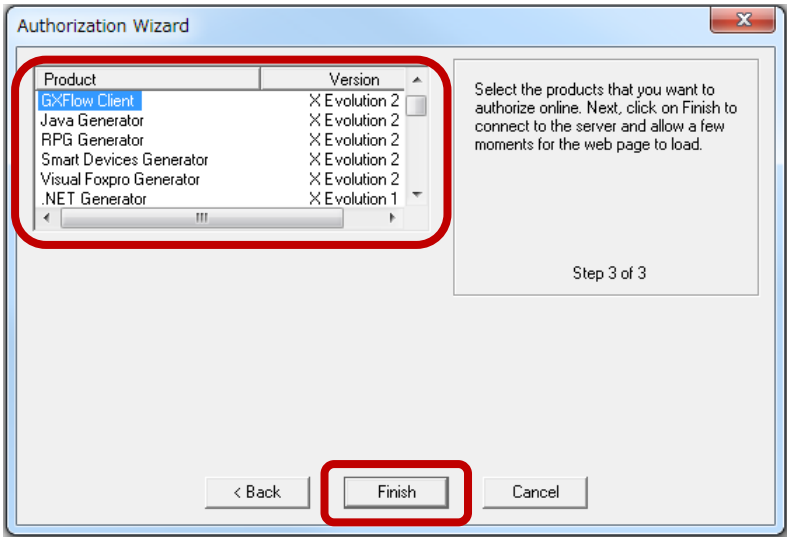


3. 「**Request License**」を選択してから「**Next**」ボタンをクリックします。

次のようなライセンス請求方法の選択画面が表示されます。請求方法はオンライン（Authorize Online）とオフライン（Generate Authorization File）の２種類があります。

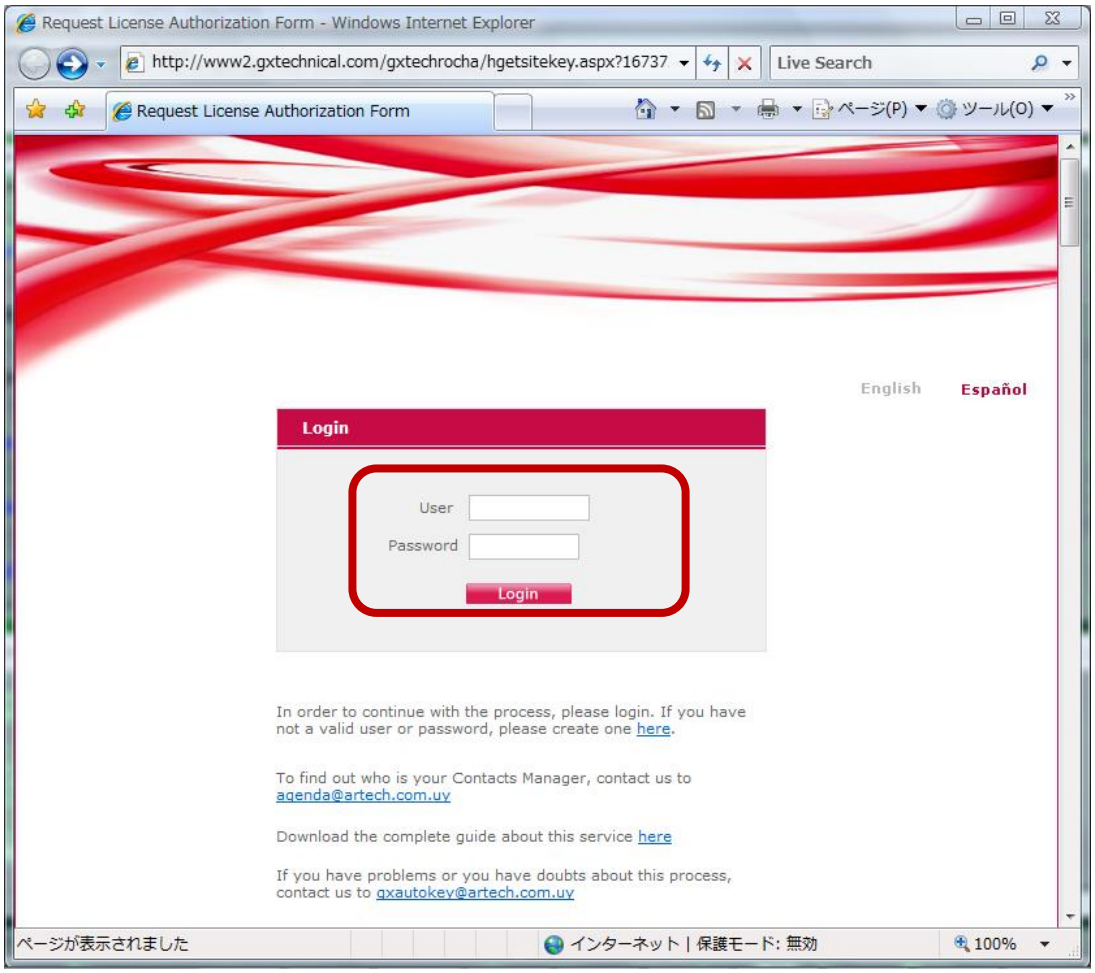


4. ここでは「**Authorize Online**」を選択してから「**Next**」ボタンをクリックします。
ライセンス請求する製品の選択画面が表示されます。



5. 「**Product**」リストから「**GXFlow Client**」を選択し、「**Finish**」ボタンをクリックします。

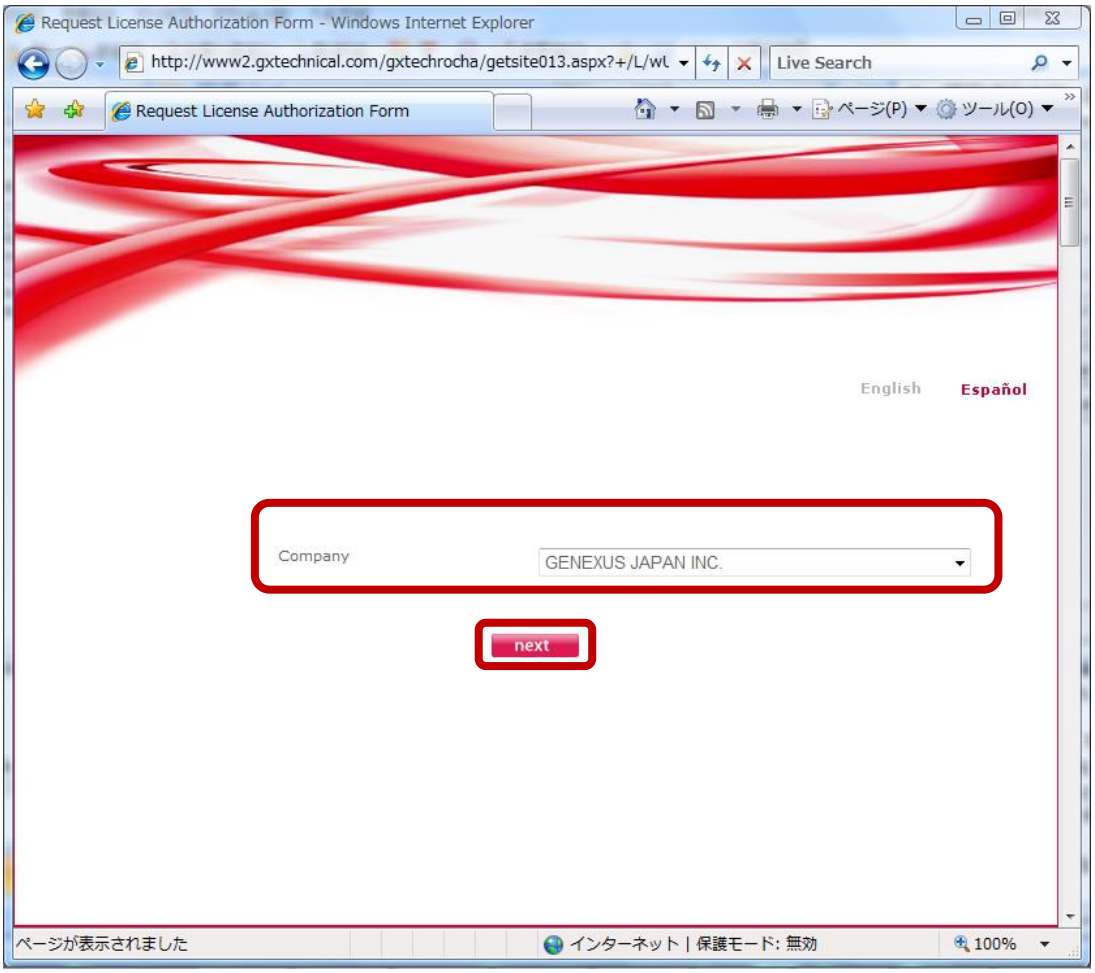
既定のブラウザが自動的に起動し（起動していない場合）、次のような画面が表示されます。



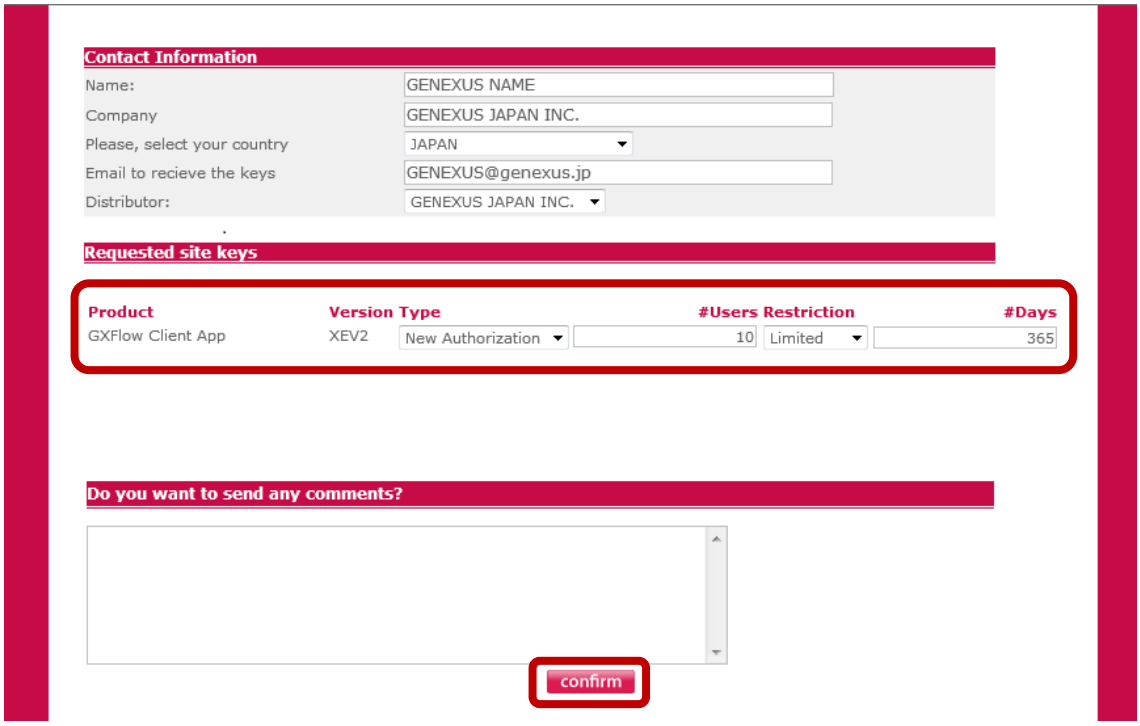
6. 「**User**」フィールドにユーザー名を入力し、「**Password**」フィールドにパスワードを入力してから、「**Login**」ボタンをクリックします。

重要：このログイン画面では、www.gxtechnical.com または問題追跡システム（http://www.genexus.com/jp-it/ITLogin?ja）で登録したユーザーアカウントを使用する必要があります。ユーザー登録の方法については、GeneXus X Evolution 2 インストーラに付属の「**GeneXus X Evolution 2 インストールガイド**」の「**ユーザー登録**」のセクションを参照してください。

7. ライセンスを請求する会社名を選択し、「**Next**」ボタンをクリックします（ログインユーザーが関連している会社が複数表示される場合、ライセンスを請求する会社名を選択してください）。



ライセンスの請求画面が表示されます。次のようなログインしたユーザーの情報が表示されます。



画面の詳細は次のとおりです:

- **Contact Information**
  - **Name:** ログインユーザー名（ライセンス請求者）
  - **Company:** 会社名
  - **Please select your country:** 国名（JAPAN）
  - **Email to receive the keys:** ライセンスキーを受け取るメールアドレス
  - **Distributor:** 販売会社名（GeneXus Japan Inc. 以外が表示されている場合は、GeneXus Japan Inc. を選択してください）

上記のセクションは確認用です。内容を編集する必要はありません。

- **Requested site keys**
  - **Product:** 製品名（GXFlow Client APP）
  - **Version:** GXflow のバージョン名

- ✧ **Type: 請求の種類**
  - **New Authorization**：新規請求の場合に選択します。このオプションを選択すると、ライセンス数と有効日数を指定することができます。
  - **Change Restrictions**：継続請求（ライセンスの延長）の場合に選択します。このオプションを選択すると、有効日数のみを変更することができます。同時にライセンス数を追加することはできません。
- ✧ **#Users: ライセンスの必要数**
- ✧ **Restriction:** 制限（日本語版では未対応）
- ✧ **＃Days: ライセンスの有効日数**

- **Do you want to send any comments?**：入力は不要です（弊社記入用）。

8. 「**Requested site keys**」の「**Type**」で「**New Authorization**」が選択されていることを確認し（新規請求の場合、「New Authorization」が自動的に選択されています）、「**#Days**」にライセンスの有効日数を入力します。

重要：ライセンス数（ユーザー数）と有効日数の両方を同時に変更することはできません。はじめにどちらか一方のライセンス請求を行い、変更されたライセンスを取り込んだ後で、もう一方のライセンス請求を行う必要があります。

9. 請求内容を確認してから「**Confirm**」ボタンをクリックします。

これでラインセンス請求は完了です。

ライセンスキーは、ライセンス請求ユーザーのメールアドレスに送信されます。ライセンスを有効にする方法については、後述の「ライセンス取得」を参照してください。

重要：ライセンスの発行は Artech 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。ライセンスの請求は日程に余裕を持って行なってください。

・ライセンス請求受付時間

土日祝日・年末年始を除く　　9:00～16:00

時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

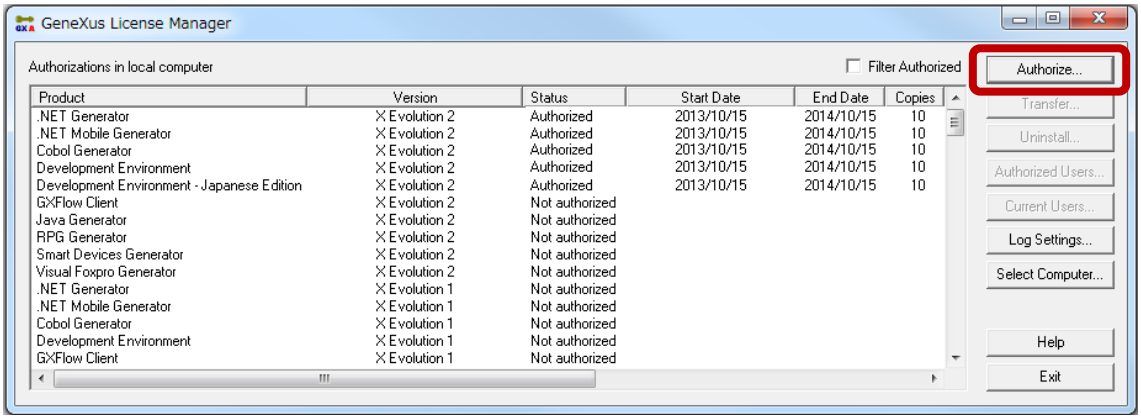
オフラインライセンス請求

次の手順にしたがって、オフラインで新規にライセンスを請求します。オンラインでライセンスを請求する場合は、前述の「オンラインライセンス請求」を参照してください。

1. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

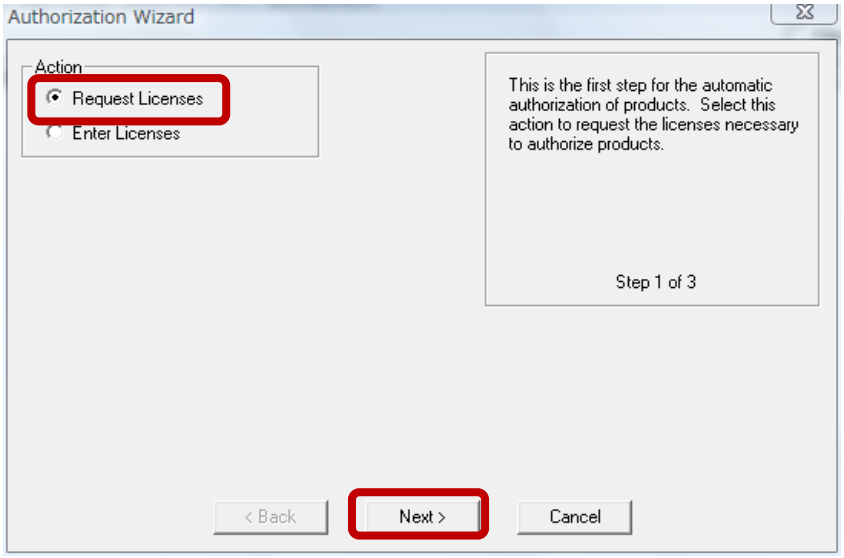
「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。

この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



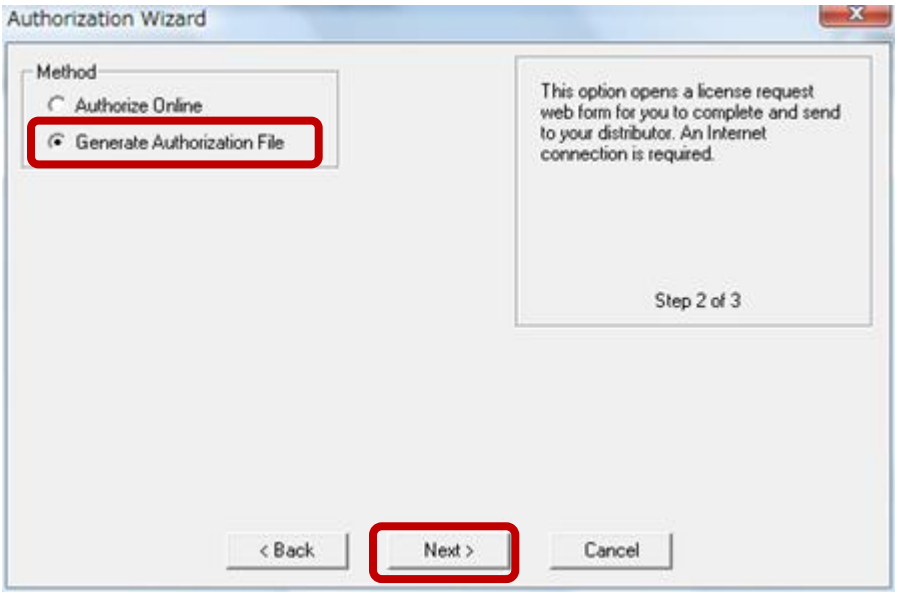
2. 「**Authorize**」ボタンをクリックします。

ライセンスの請求または取り込みオプションが表示されます。

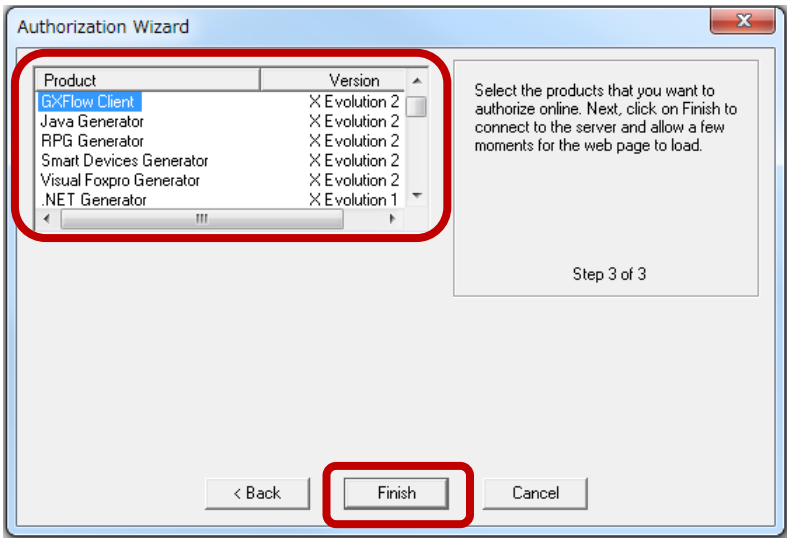


3. 「**Request License**」を選択してから「**Next**」ボタンをクリックします。

次のようなライセンス請求方法の選択画面が表示されます。請求方法はオンライン（Authorize Online）とオフライン（Generate Authorization File）の２種類があります。



4. ここでは「**Generate Authorization File**」を選択してから「**Next**」ボタンをクリックします。ライセンスを請求する製品の選択画面が表示されます。



5. 「**Product**」リストから「**GXFlow Client**」を選択し、「**Finish**」ボタンをクリックします。
6. 「**.gxa**」という名前のファイルが生成されます。このファイルの保存先を変更する場合には、「**Browse**」ボタンをクリックしてから、任意の場所を指定します。

「**.gxa**」ファイルが生成されたことを示す、次のようなダイアログが表示されます。

7. 「**OK**」ボタンをクリックします。
8. メールアプリケーションで新規メールを作成し、手順 6 で生成した「**.gxa**」ファイルをご購入先の販売店または keysmaster@genexus.jp に送信します。

注意：販売店から GXflow X Evolution 2 を購入されたお客様の場合、「.gxa」ファイルを販売店宛に送信し、販売店からライセンスキーを受領してください。受領したライセンスキーを取り込む方法については、後述の「ライセンス取得」を参照してください。

9. 以上でオフラインでのライセンスの請求は完了です。
10. ライセンスキーは、上記手順 7 の「.gxa」ファイルを送信したメールアドレスに送信されます。ライセンスを有効にする方法については、後述の「ライセンス取得」を参照してください。

重要：ライセンスの発行は Artech 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。ライセンスの請求は日程に余裕を持って行なってください。

ライセンス請求受付時間

土日祝日・年末年始を除く　　9:00～16:00
時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

これでライセンスの請求は完了です。

GeneXus GXflow™

継続ライセンス請求

ライセンスの有効日数が残存している状態で、有効日数を延長（ライセンスを継続）することができます。このセクションでは、継続ライセンス請求について説明します。

重要：ライセンスの有効日数が 0 になると、ライセンスが失効されるため、新規にライセンスを請求しなおす必要があります。ライセンスの期限切れを防ぐため、ライセンスの継続請求は 5 営業日前までにお願い致します。有効期限よりも早めに継続請求を頂いた場合は、1 年間分の有効期間に早めに頂いた日数分をプラスしライセンスを発行致します。

例）<2014 年 12 月 15 日まで有効のライセンス>

2014 年 12 月 8 日継続請求　→　2014 年 12 月 15 日まで有効のライセンスとして、ライセンスを発行

1 年間分＋早めにご請求を頂いた日数分をプラスし、ライセンスを発行致します。

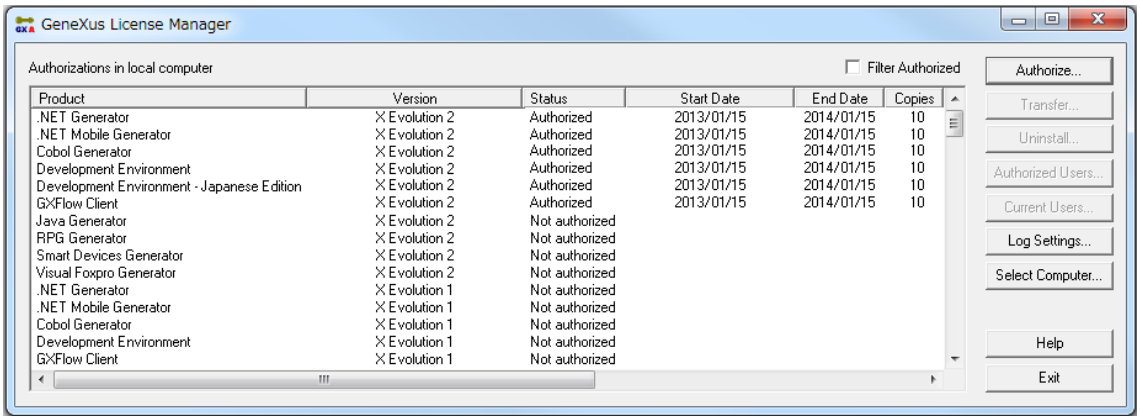
オンライン継続ライセンス請求

次の手順にしたがって、オンラインでライセンスの継続を請求します。

重要：オンラインで継続ライセンス請求を行うには、インターネットに接続する必要があります。あらかじめインターネットの接続が有効であることを確認してください。また、お使いの環境によってはオンライン請求が利用できない場合があります。オフラインで継続ライセンス請求を行う方法については、後述の「オフライン継続ライセンス請求」を参照してください。

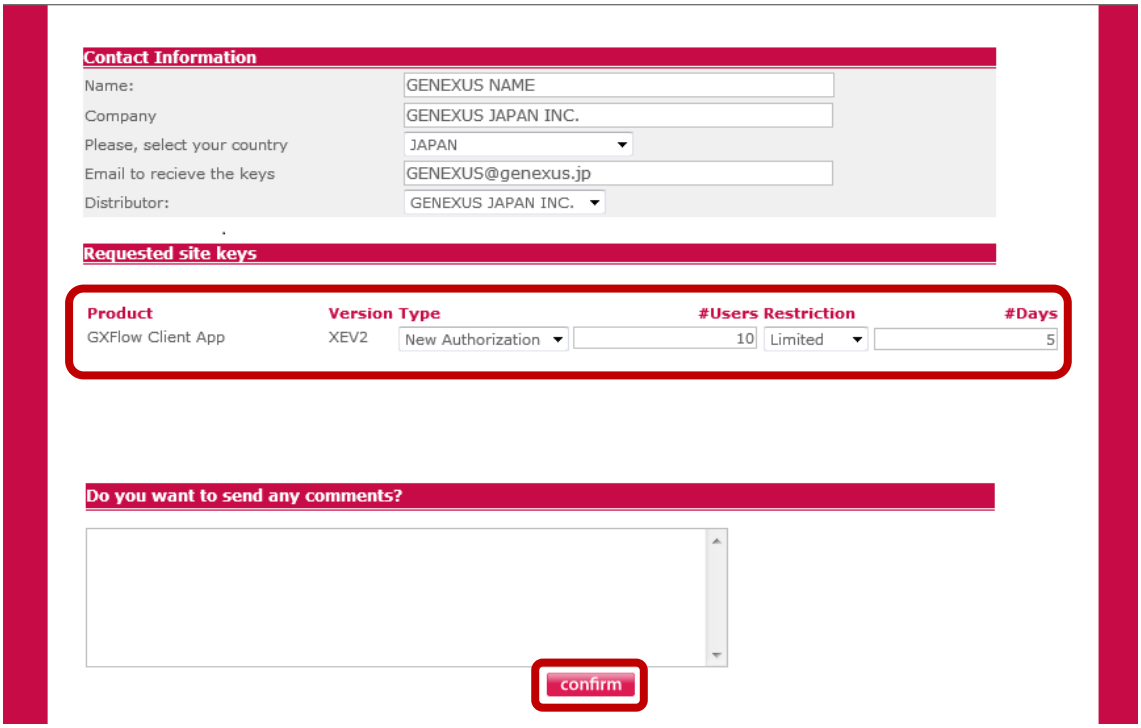
1. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



2. 「新規ライセンス請求」の「オンラインライセンス請求」セクションの手順 2～8 にしたがいます。

次のようなライセンスキーの請求画面が表示されます。



3. 「**Requested site keys**」の「**Type**」から「**Change Restrictions**」を選択し、「**#Days**」に必要な日数を入力します。

参考：継続ライセンス請求の場合、「#Days」の欄には、残存するライセンスの有効日数が表示されています。この欄には、請求当日の残存日数に必要なライセンス有効日数を加算した数字を入力する必要があります。

重要：ライセンス数（ユーザー数）と有効日数の両方を同時に変更することはできません。はじめにどちらか一方のライセンス請求を行い、変更されたライセンスキーを取り込んだ後で、もう一方のライセンス請求を行う必要があります。

4. 請求内容を確認してから「**Confirm**」ボタンをクリックします。

これでオンラインでの継続ライセンス請求は完了です。

ライセンスキーは、ライセンス請求ユーザーのメールアドレスに送信されます。ライセンスを有効にする方法については、後述の「ライセンス取得」を参照してください。

重要：ライセンスの発行は Artech 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。ライセンスの請求は日程に余裕を持って行なってください。

ライセンス請求受付時間

土日祝日・年末年始を除く　　9:00～16:00

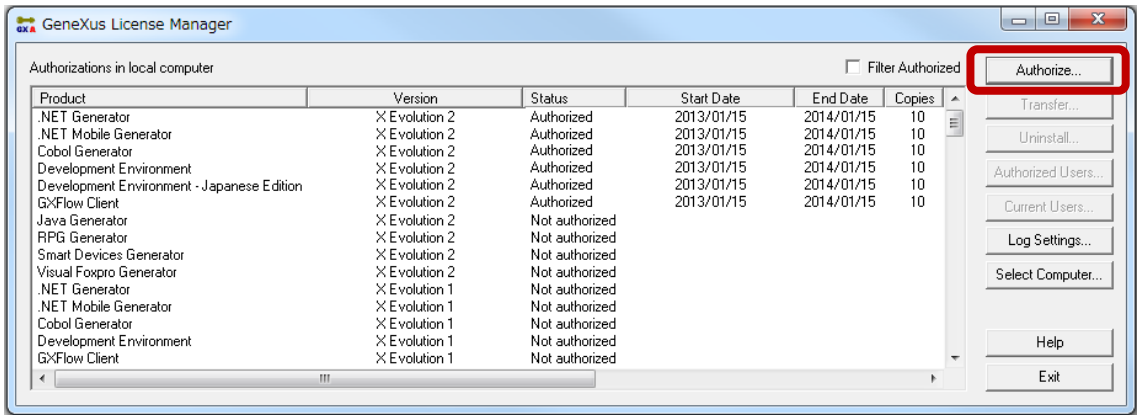
時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

オフライン継続ライセンス請求

次の手順にしたがって、オフラインで継続ライセンスを請求します。オンラインで継続ライセンスを請求する場合は、前述の「オンライン継続ライセンス請求」を参照してください。

1. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



2. 「GeneXus License Manager」の起動時の画面（上図を参照）のスクリーンショットを撮り、保存します。

   スクリーンショットには「**Product**」、「**Version**」、「**Status**」、「**Start Date**」、「**Copies**」、および「**Restriction**」の「**Validity Days**」の内容が表示されている必要があります。

3. 「新規ライセンス請求」の「オフラインライセンス請求」セクションの手順 2~7 にしたがいます。
4. メールアプリケーションで新規メールを作成し、以下のファイルをご購入先の販売店または keysmaster@genexus.jp に送信します。
    - 「GeneXus License Manager」の起動画面のスクリーンショット
    - 「Windows」フォルダにある「GxProt.log」ファイル
    - 上記の手順で作成した「.gxa」ファイル
    - 弊社より送付済みのライセンス発行台帳に記載のライセンス番号

以上でオフラインでの継続ライセンス請求は完了です。
ライセンスキーは、上記のファイルを送信したメールアドレスに送信されます。ライセンスを有効にする方法については、後述の「ライセンス取得」を参照してください。

重要：ライセンスの発行は Artech 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。ライセンスの請求は日程に余裕を持って行なってください。
ライセンス請求受付時間
土日祝日・年末年始を除く　　9:00~16:00
時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

ライセンス取得

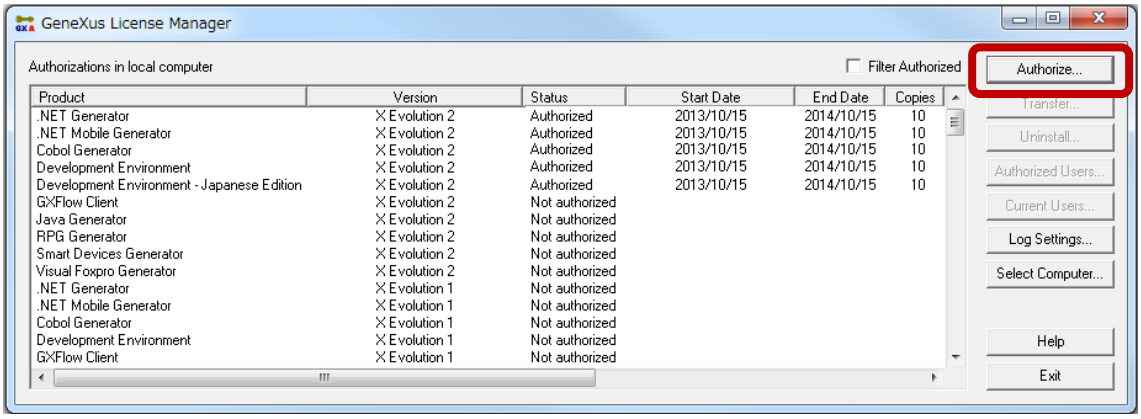
発行されたライセンスキーは、ユーザー登録済みのメールアドレスに送信されます。添付のファイルを開いて、ライセンスを請求したサーバーにデータを取り込むことでライセンスを登録することができます。このライセンスファイルを開くと、「**GeneXus License Manager**」が起動して自動的にライセンスキーを取り込み、取り込み結果が画面に表示されます。

ここでは、手動でライセンスファイルを取り込む場合の手順を説明します。

1. メールに添付されたライセンスファイルを、ライセンスを請求したサーバーにコピーします。
2. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。

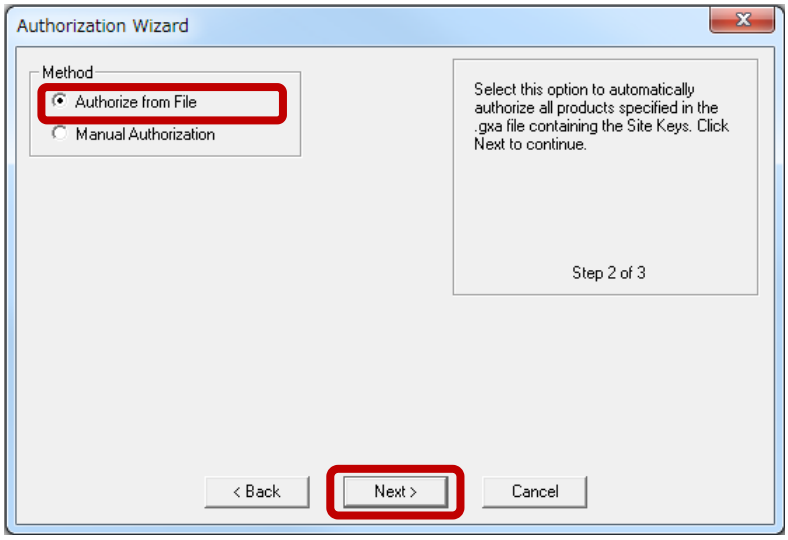
この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



3. 「**Authorize**」ボタンをクリックします。

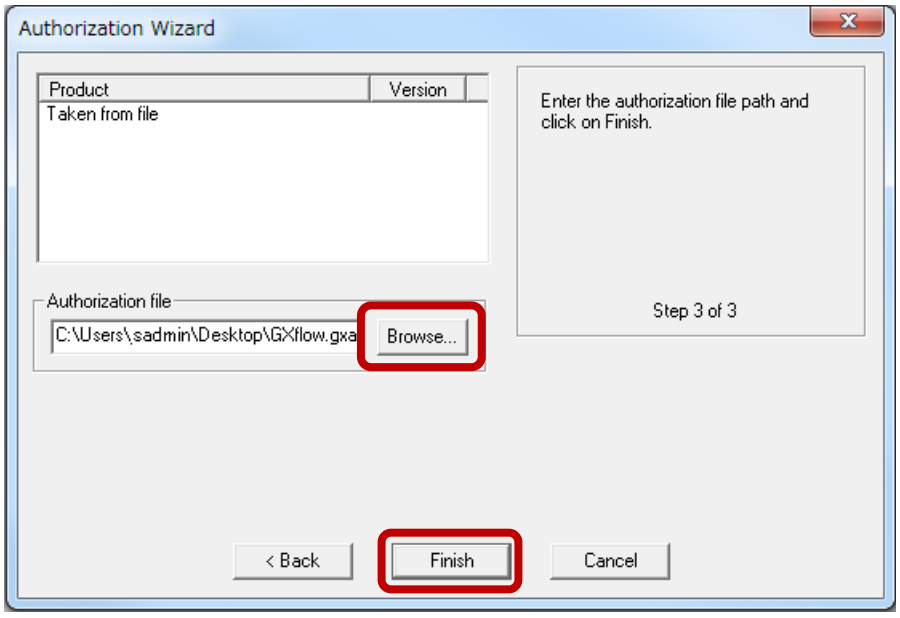
次のような取り込み画面が表示されます。

4. 「**Enter Licenses**」を選択してから「**Next**」ボタンをクリックします。
5. ファイルからライセンスキーを取り込む場合は「**Authorize From File**」を選択して「**Next**」ボタンをクリックします。



参考：「Manual Authorization」を選択すると、メールの本文に記載されている製品ごとの 16 進数の長いコードを指定する必要があります。このオプションを選択する場合は入力ミスがないように十分に注意してください。

次のようなライセンスファイルの選択画面が表示されます。



6. 「**Browse**」ボタンをクリックして、手順 1 でコピーしたファイルを選択し、「**Finish**」ボタンをクリックします。

これでライセンスの取得（登録）は完了です。

GXflow ユーザーのノミネート（登録）

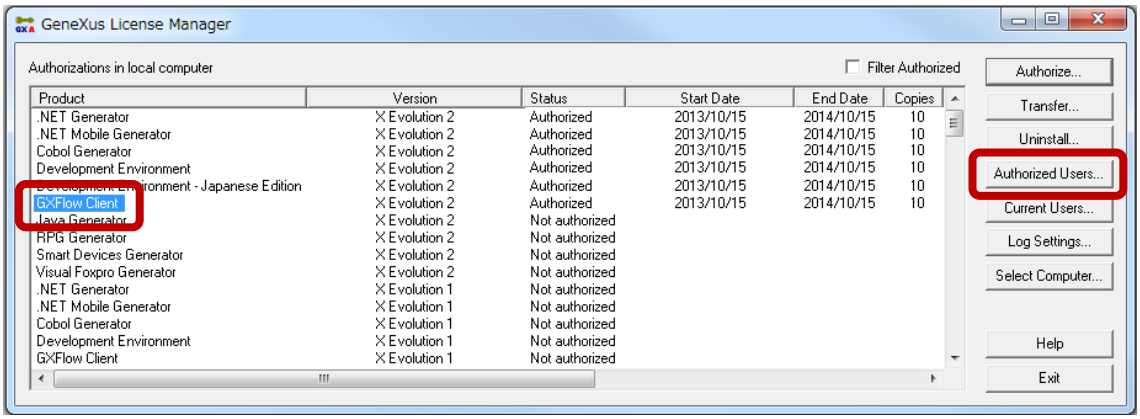
通常ライセンスの場合、GXflow の Inbox（受信トレイ）を利用するクライアントユーザーをあらかじめ Protection Server にノミネートしておく必要があります。このセクションではクライアントユーザーのノミネート方法について説明します。複数のユーザーを一度にノミネートする場合は、事前にクライアントユーザー名を記述した XML ファイルを作成して取り込むこともできます。**なお、「コーポレートライセンス」をお使いの場合、クライアントユーザーのノミネートは不要です。**

重要：Protection Server にノミネートするユーザー名は、GXflow アプリケーションにログインするユーザーアカウント（ユーザー名）と同じである必要があります。なお、ノミネートしたユーザー名は後から変更することができます。

ユーザーを 1 件ずつノミネートする

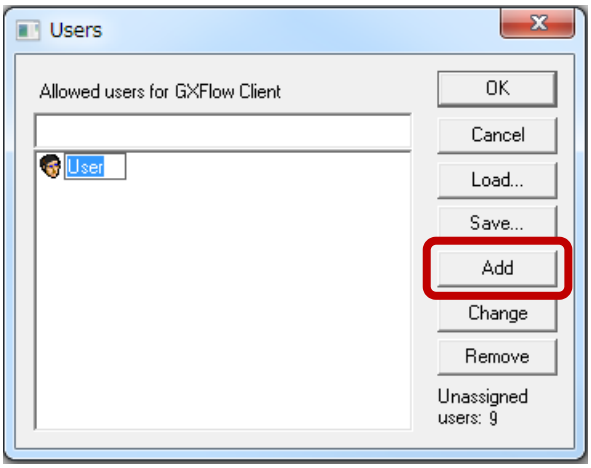
1. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

2. 「**Product**」リストから「**GXFlow Client**」を選択します。

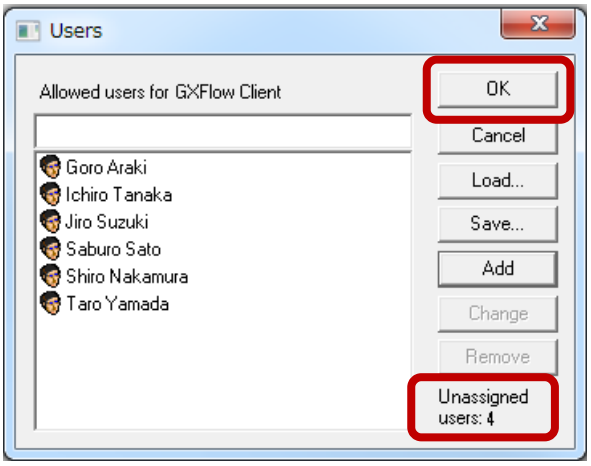


3. 「**Authorized Users**」ボタンをクリックします。クライアントユーザーの設定用ウィンドウが表示されます。

4. 「**Add**」ボタンをクリックし、顔のアイコンの右側のフィールドを選択します。



5. クライアントユーザー名を入入力してから「**OK**」ボタンをクリックします。別のユーザーを登録する場合、手順 4~5 を繰り返します。



参考：上図の右下隅の「**Unassinged users**」には、所有しているライセンスのうち、ノミネートされていないユーザー数が表示されます。

GeneXus GXflow™

複数のユーザーを一度にノミネートする

複数のユーザー名をリストした XML ファイルを使って、一度に複数のクライアントユーザーをノミネートすることができます。

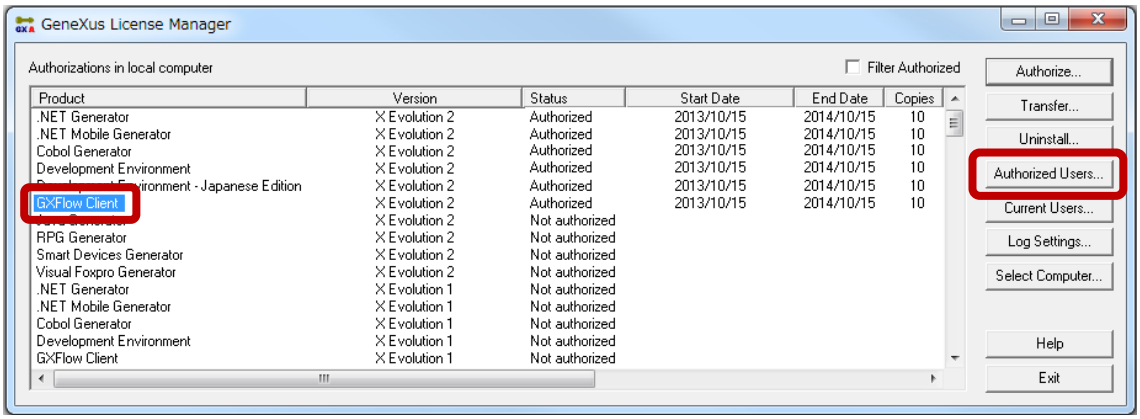
1. 次の形式でクライアントユーザーを定義した XML ファイルを用意します。

```
<Users>
    <User>User 01</User>
    <User>User 02</User>
    <User>User 03</User>
    ...
</Users>
```

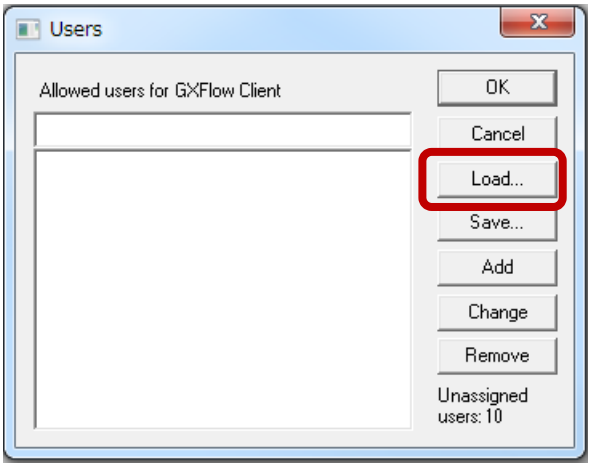
参考：XML ファイルに含まれるユーザー数がノミネート可能なライセンス数より多い場合、ダイアログが表示され、任意にユーザーを選択することができますが、事前にライセンス数に合わせてデータベースから XML ファイルを出力するプログラムを準備しておくことをお勧めします。

2. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

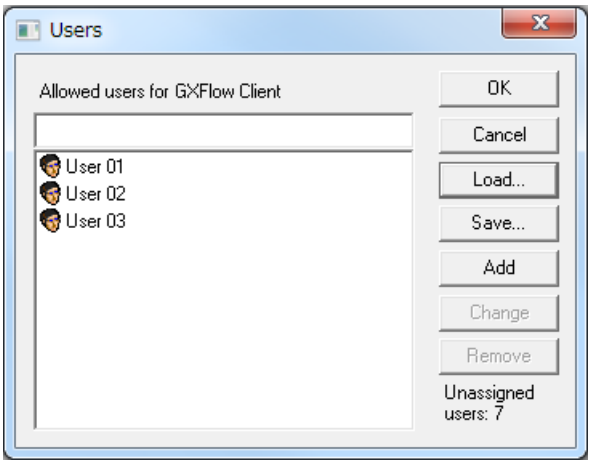
3. 「**Product**」リストから「**GXFlow Client**」を選択します。



4. 「**Authorized Users**」ボタンをクリックします。クライアントユーザーの設定用ウィンドウが表示されます。



5. 「**Load**」ボタンをクリックして、手順 1 の XML ファイルを選択します。



XML に登録されているユーザーが表示されます。これでユーザーのノミネートは完了です。

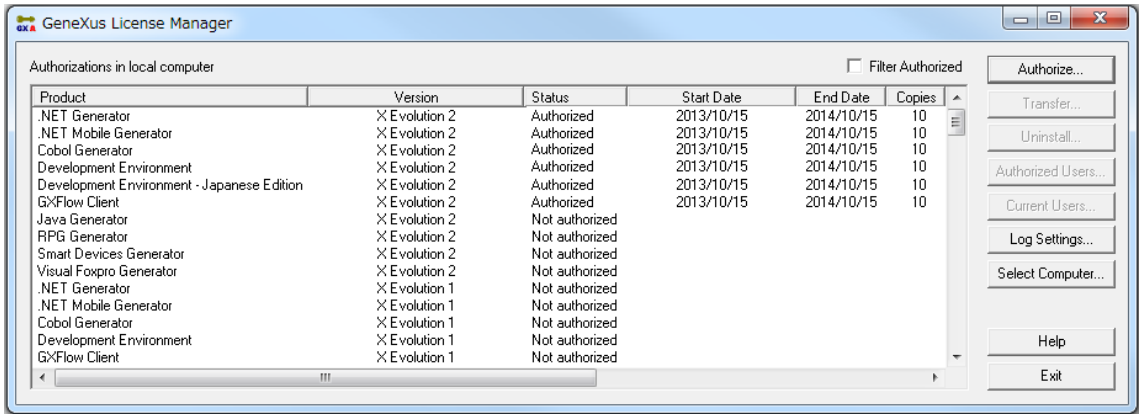
ライセンスのアンインストール

ここのセクションでは、GXflow ライセンスをアンインストールする方法について説明します。

重要：Gxflow ライセンスをアンインストールする前に、クライアントユーザーが GXflow を使用していないことを確認してください。Gxflow を使用しているユーザーがいる場合は、ライセンスのアンインストールはできません。

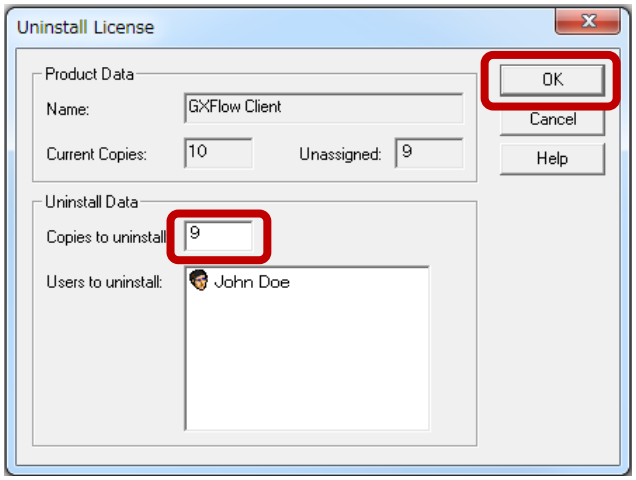
1. 「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。
この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



2. 「**Product**」から「**GXFlow Client**」を選択し、「**Uninstall**」ボタンをクリックします。

次のような「**Uninsatall License**」画面が表示されます。



3. 「**Copies to uninstall**」フィールドにアンインストールするライセンス数を入力してから、「**OK**」をクリックします。

注意：ライセンスを使用しているユーザーがいる場合には、手順 2 の図のように「Users to uninstall」フィールドにユーザー名が表示され、該当のライセンスをアンインストールすることはできません。

ライセンスの移行

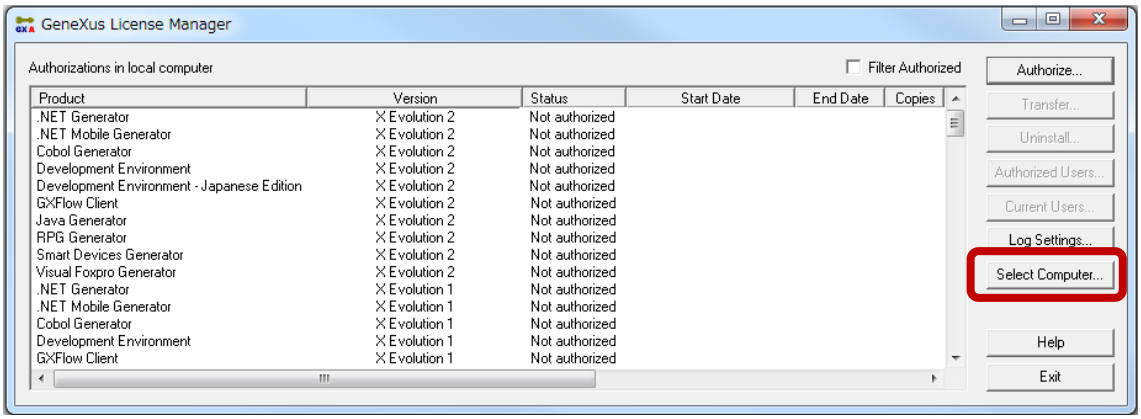
Protection Server をインストールしているコンピューターまたはサーバーを交換する場合など、元のマシンで保有しているライセンスを別のマシンに移行することができます。

この場合、はじめにライセンスの移行先のコンピュータ（ターゲットマシン）でライセンス情報の登録用ファイルを作成（Register License）し、次にライセンスがインストールされているコンピュータ（ソースマシン）でライセンス情報を書き出し（Transfer Out）、最後にターゲットマシンでライセンスを読み込む（Transfer In）操作を実行する必要があります。

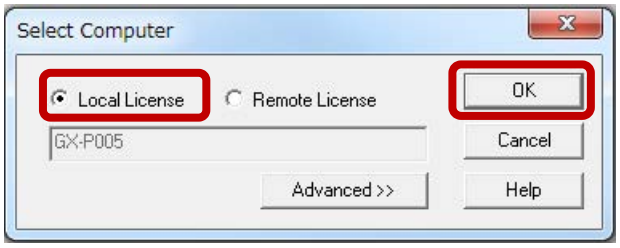
重要：ライセンスを移行する前に移行先のコンピューターおよびサーバーにインストールされている「Protection Server」のバージョンが同じであることを確認してください。異なるバージョン間ではライセンスの移行はできません。

1. ターゲットマシン（ライセンスの移行先）内の「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista、Windows 7、8 の場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。
この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレター）とライセンスの状態が表示されます。



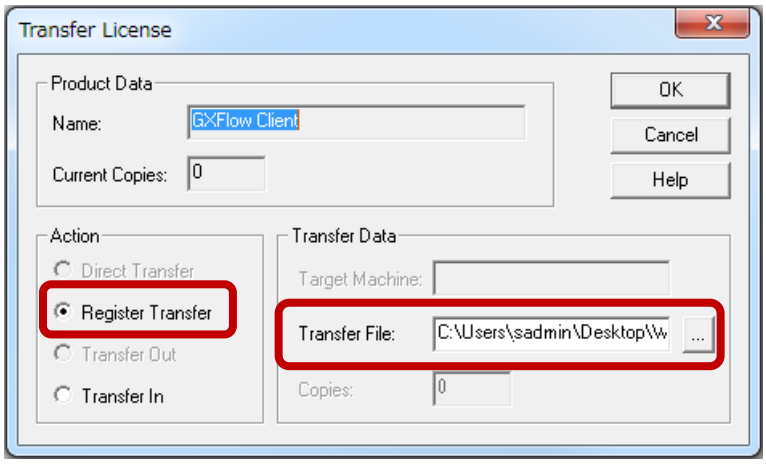
2. 「**Select Computer**」をクリックします。「Select Computer」ウィンドウが表示されます。



3. 「**Local License**」のオプションが選択されていることを確認し、「**OK**」ボタンをクリックします。

「License Manager」の起動画面に戻ります。

4. 「**Product**」から「**GXFlow Client**」を選択してから、「**Transfer**」ボタンをクリックします。



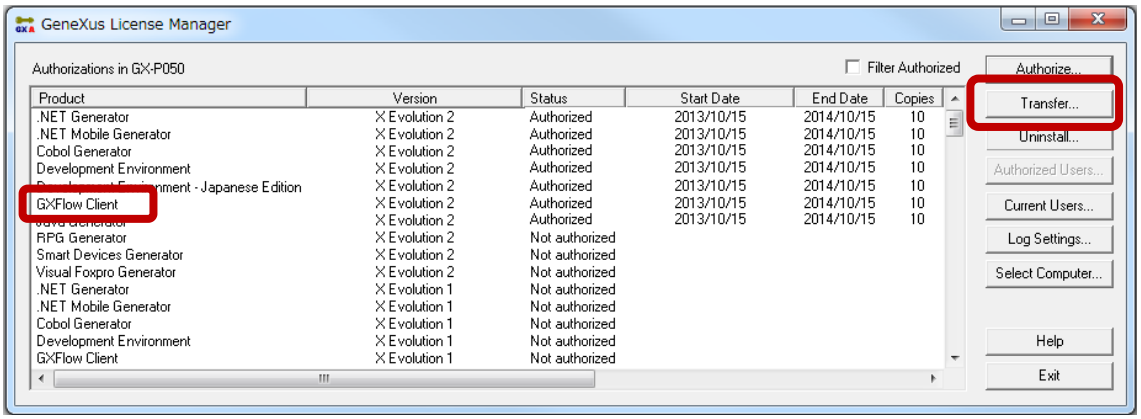
5. 「Transfer License」画面が表示されたら、「**Action**」セクションの「**Register Transfer**」を選択し、「**Transfer File**」フィールドの右端にあるボタンをクリックし、「**GxProt.trf**」ファイルの保存先を指定します。

参考：「**GxProt.trf**」は既定のファイル名です。「.trf」の拡張子を持つ、任意のファイル名に変更してください。

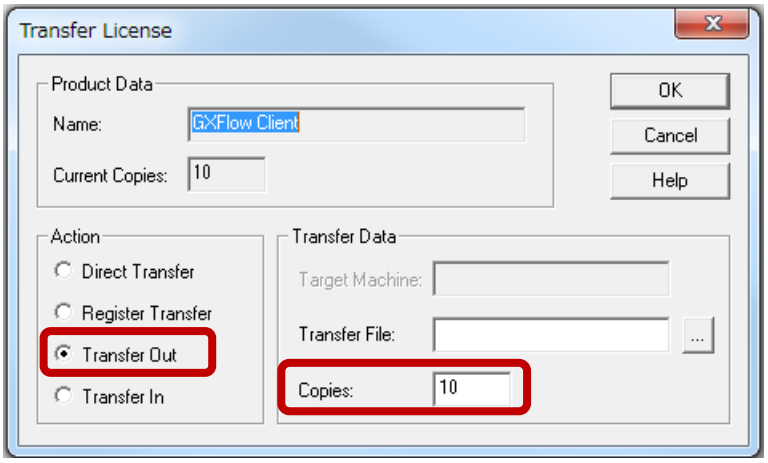
6. 「**OK**」をクリックします。
7. 「**GxProt.trf**」ファイルをソースマシン（ライセンスキーがインストールされているコンピューター）にコピーします。

この後、ソースマシン（ライセンスの移行元）で操作を行います。

8. ソースマシン内の「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します。次のような画面が表示されます。



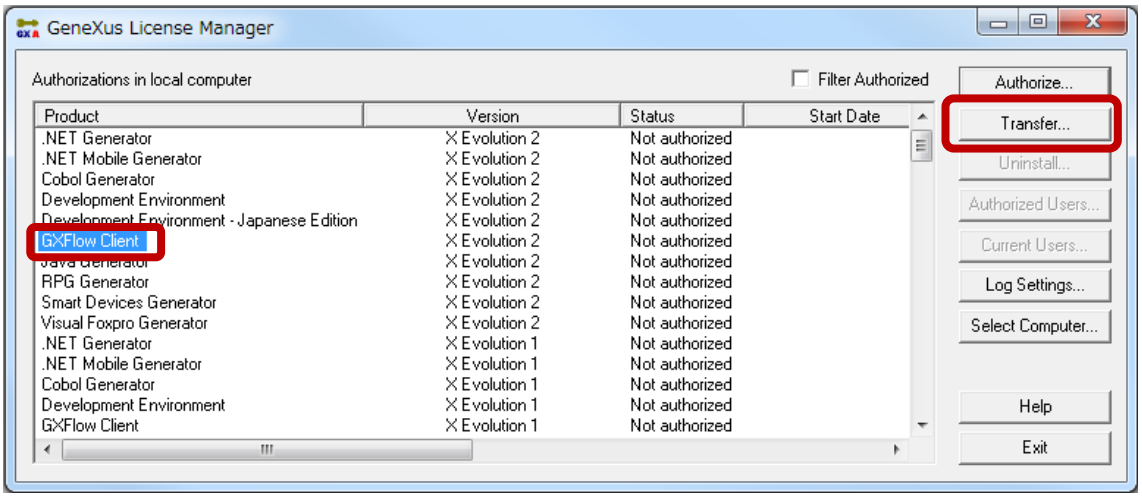
9. 「**Product**」から「**GXFlow Client**」を選択してから、「**Transfer**」ボタンをクリックします。



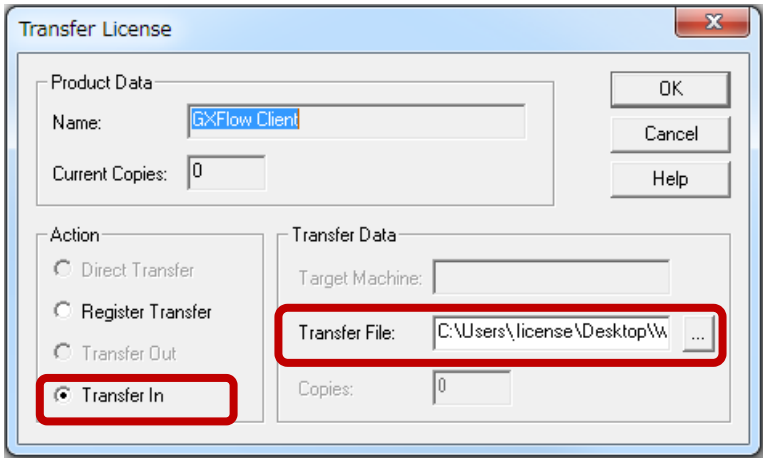
10. 「**Action**」セクションの「**Transfer Out**」を選択し、「**Copies**」フィールドに必要数を入力してから、「**Transfer File**」フィールドの右端にあるボタンをクリックし、手順 5 の「**GxProt.trf**」ファイルを選択します。
11. 「**OK**」をクリックします。
12. ライセンスデータを格納した「**GxProt.trf**」ファイルをターゲットマシン（ライセンスの移行先）にコピーします。

この後ターゲットマシン（ライセンスの移行先）に戻って操作を行います。

13. ターゲットマシン内の「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します。次のような画面が表示されます。



14. 「**Product**」から「**GXFlow Client**」を選択し、「**Transfer**」ボタンをクリックします。



15. 「**Action**」セクションの「**Transfer In**」を選択し、「**Transfer File**」フィールドの右端にあるボタンをクリックし、手順 12 の「**GxProt.trf**」ファイルを選択します。
16. 「**OK**」をクリックします。

これでライセンスの移行は完了です。

重要：ターゲットマシンでトランスファー(.trf)ファイルを作成後に、もう一度 .trf ファイルを作成しようとすると、警告画面が表示されます。これは .trf ファイルに格納される情報が異なるためです。はじめに作成されたファイルを使って、ソースマシンですでに「Trasnfer Out」処理が実行された場合、もう一度２度目に作成した .trf ファイルを使って「Transfer Out」処理をやりなおす必要があります。

GeneXus GXflow™

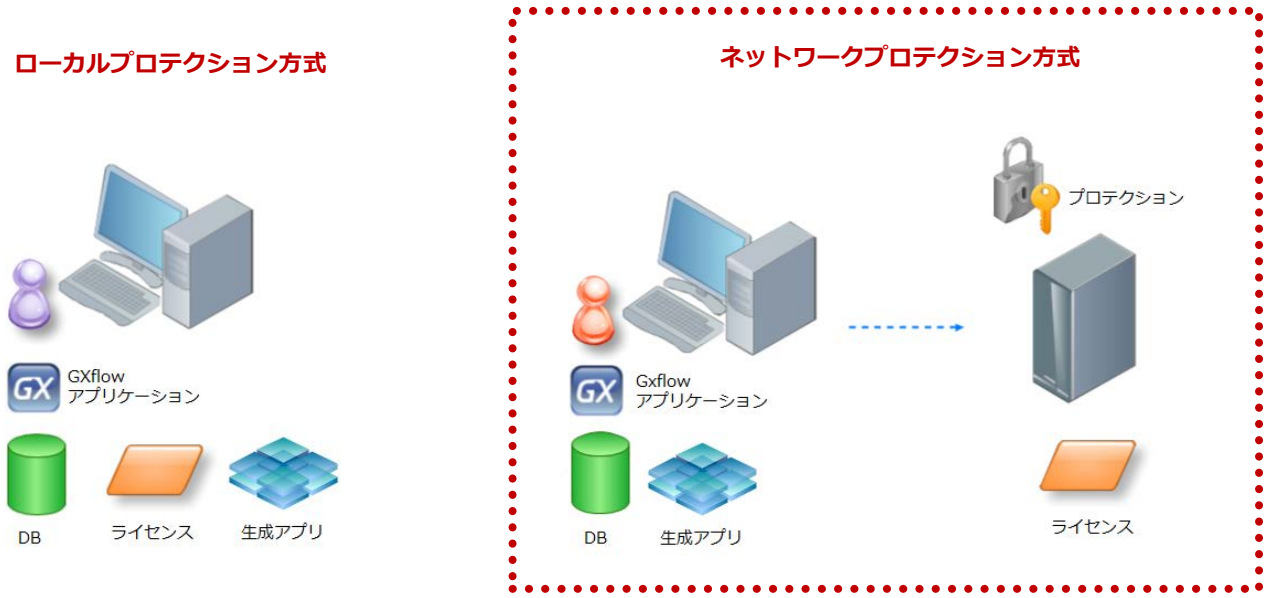
ライセンスの再発行について

GeneXus License Manager または Protection Server をインストールしているマシンの交換または故障により、ライセンスの再発行が必要な場合には、ライセンス再発行依頼書を作成し、弊社に郵送して頂く必要があります。
また、交換の場合、旧マシンにインストールされているライセンスをアンインストールしてから、ライセンスの再発行を依頼してください。詳しくは前述の「ライセンスのアンインストール」を参照してください。

弊社に「ライセンス再発行依頼書」を請求し、必要事項を明記のうえ、社判を押印してから弊社に郵送してください。再発行依頼書の確認後に弊社より連絡を差し上げますので、別途ライセンスの請求手続きを行ってください。ライセンス請求については、前述の「ライセンス請求」を参照してください。

付録：ネットワークプロテクションの設定例

このセクションでは、下図で示すようなアプリケーションサーバーとは別のサーバー(プロテクションサーバー)にライセンスを保有させる場合(ネットワークプロテクション方式)の設定方法の一例を紹介します。設定内容はお使いの環境によって異なりますので、ネットワーク管理者またはシステム管理者にご相談ください。



ネットワークプロテクションの設定について

ライセンスをネットワークプロテクション方式で運用する場合、次の要領でサーバーのセットアップを行います：

a) ライセンスを保有するサーバーに「GeneXus Protection Server」をインストールする。
インストール方法については、後述の「GeneXus Protection Server のインストール」を参照してください。

b) 「GeneXus Protection Server」をインストールしたサーバー(プロテクションサーバー)で次の環境設定を行う。

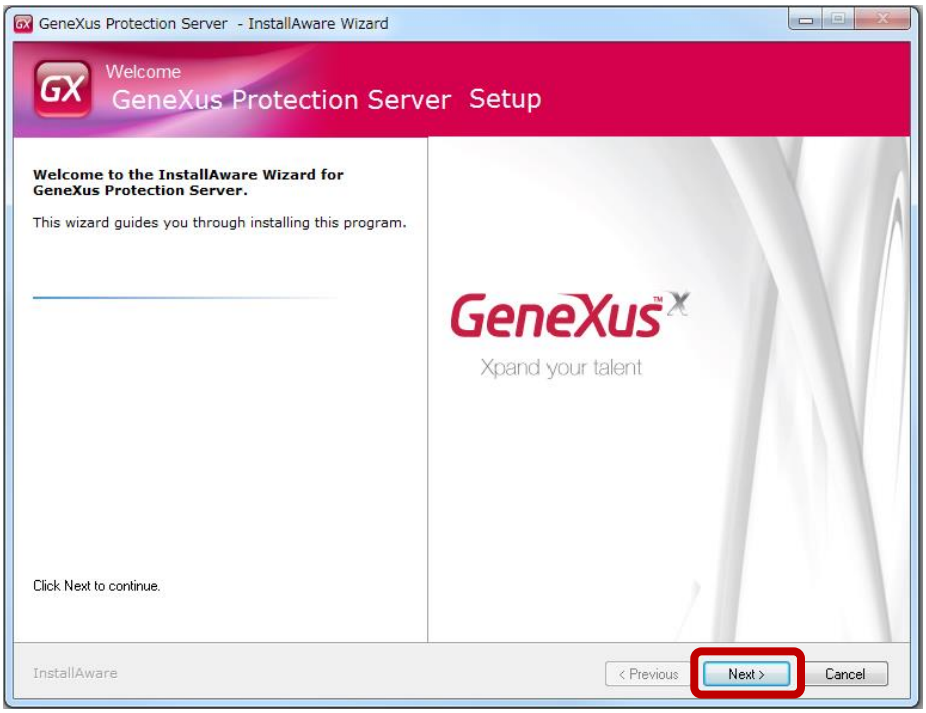
- Windows ファイアウォール（「コントロールパネル」＞「システムとセキュリティ」）で送受信に TCP ポート 135 を許可する。
- Windows ファイアウォール(「コントロールパネル」>「システムとセキュリティ」)で「ProtSrv.exe」を許可する。
- ユーザーの追加・設定（「コントロールパネル」＞「システムとセキュリティ」＞「管理ツール」）でプロテクションサーバーにクライアントの IIS ユーザーを同名・同パスワードで追加する。
詳細については、後述の「管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について」を参照してください。
- 追加したユーザーにグループ「ARTech Remote Protection Users」を追加する。
詳細については、後述の「管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について」を参照してください。

GeneXus Protection Server のインストール

前述のとおり、GeneXus のライセンスシステムには、アプリケーションがインストールされているマシンにライセンスを保有させる「**ローカルプロテクション方式**」と GeneXus Protection Server にライセンスを保有させる「**ネットワークプロテクション方式**」があります。GeneXus および GXflow のご使用環境に応じて、ライセンスの保有先を決定する必要があります。「**ネットワークプロテクション方式**」の場合、ライセンスを保有するサーバーに「**GeneXus Protection Server**」をインストールする必要があります。このセクションでは、GeneXus Protection Server のインストール方法について説明します。

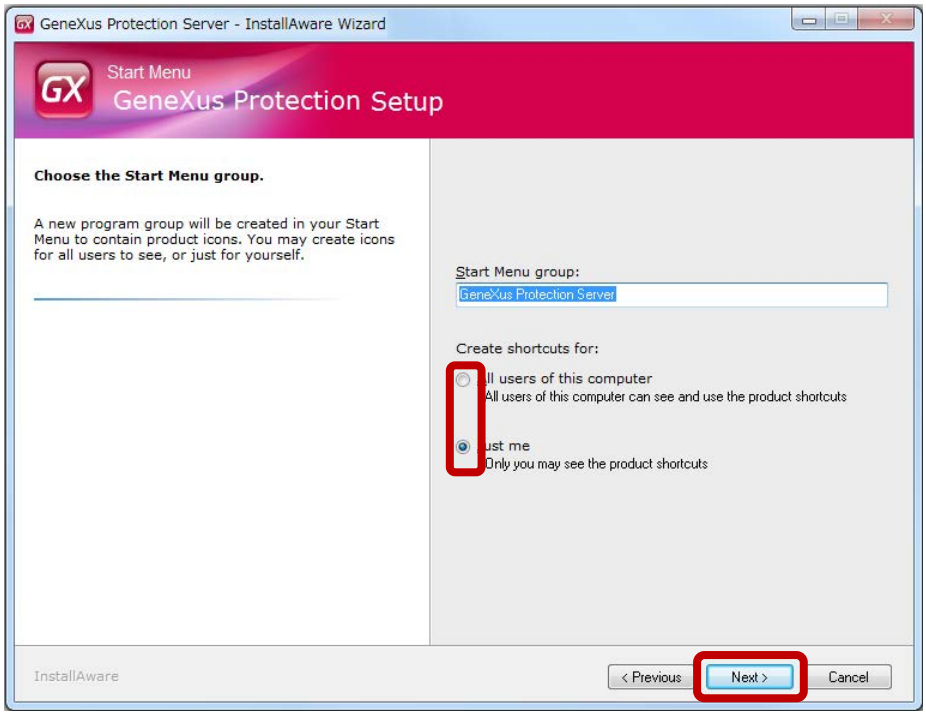
1. GeneXus Japan の Web サイト（http://www.genexus.com/downloads/products-jp?ja）からお使いの GeneXus のバージョンに対応する「GeneXus Protection Server」をダウンロードします。

2. 「gxprtsrvXXX.exe」といった名前のセットアップファイルを起動します（Windows Vista、Windows 7 および 8 をお使いの場合は右クリックして「**管理者として実行**」を選択します）。次のような画面が表示されます。



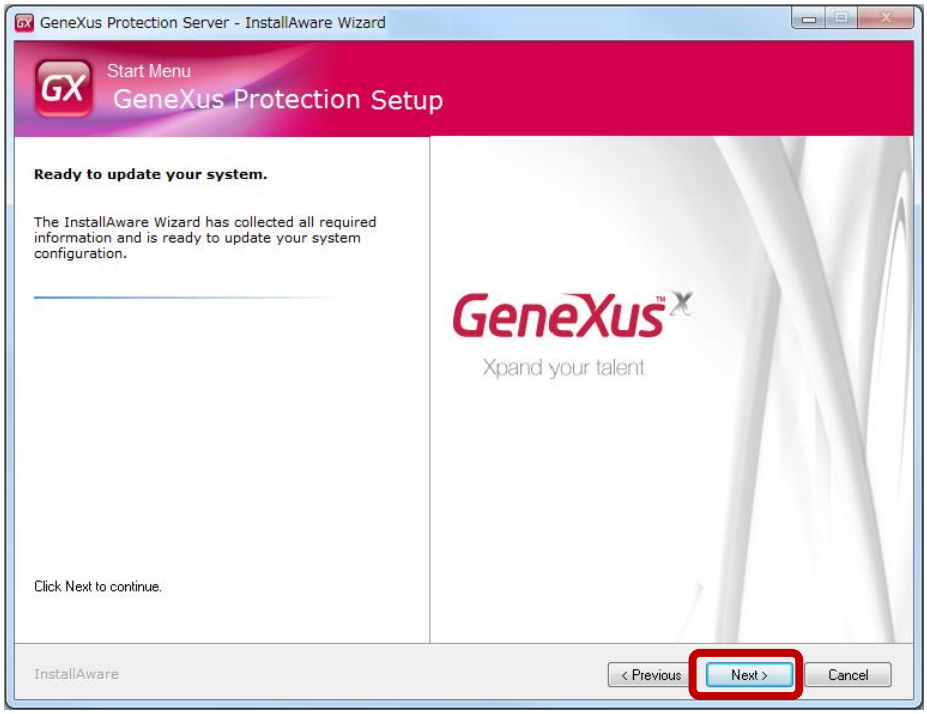
3. 「**Next**」をクリックします。情報登録画面が表示されます。
4. 「**Name**」フィールドに管理者の名前を入力し、「**Company**」フィールドに会社名を入力します。

5. 「**Next**」をクリックします。次のようなスタートメニューへの登録画面が表示されます。

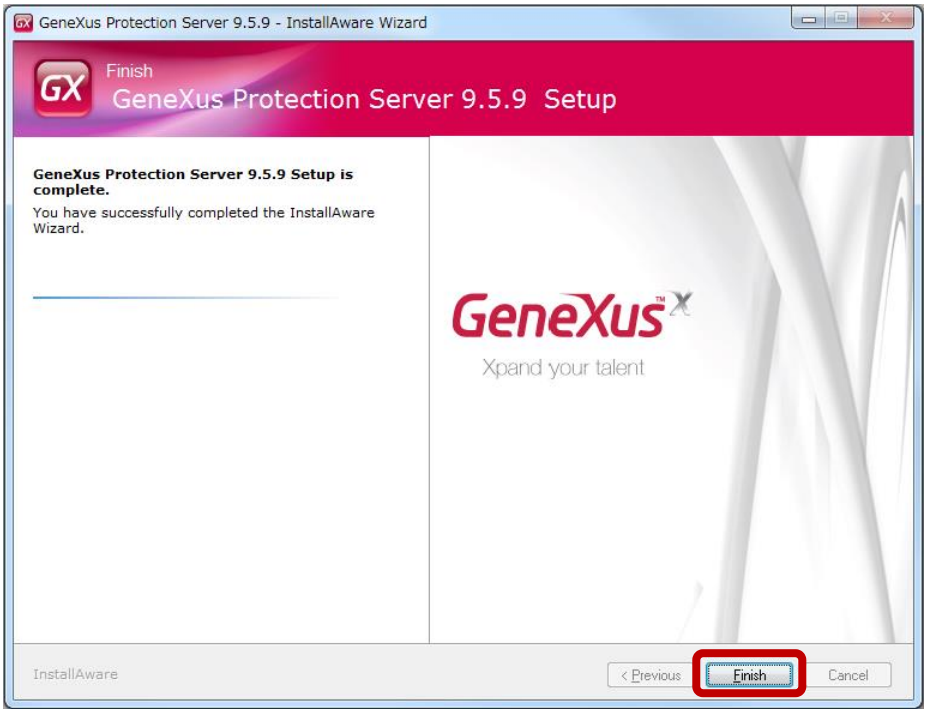


6. 「**Start Menu group**」フィールドにアプリケーション名を指定します(既定では「GeneXus Protection Server XXX」と表示されています。XXX にはバージョン番号が表示されます）。
ショートカットを作成する対象として以下のいずれかのオプションを選択します。
   - 「**All users of this computer**」: 全てのユーザーにプログラムショートカットを作成します。
   - 「**Just me**」: 現在ログインしているユーザーにのみプログラムショートカットを作成します。

7. 「**Next**」をクリックします。次のような画面が表示されます。



8. 「**Next**」をクリックします。インストールの進捗状況を示すプログレスバーが表示されます。
9. 次のようなセットアップ完了の画面が表示されたら、「**Finish**」をクリックします。

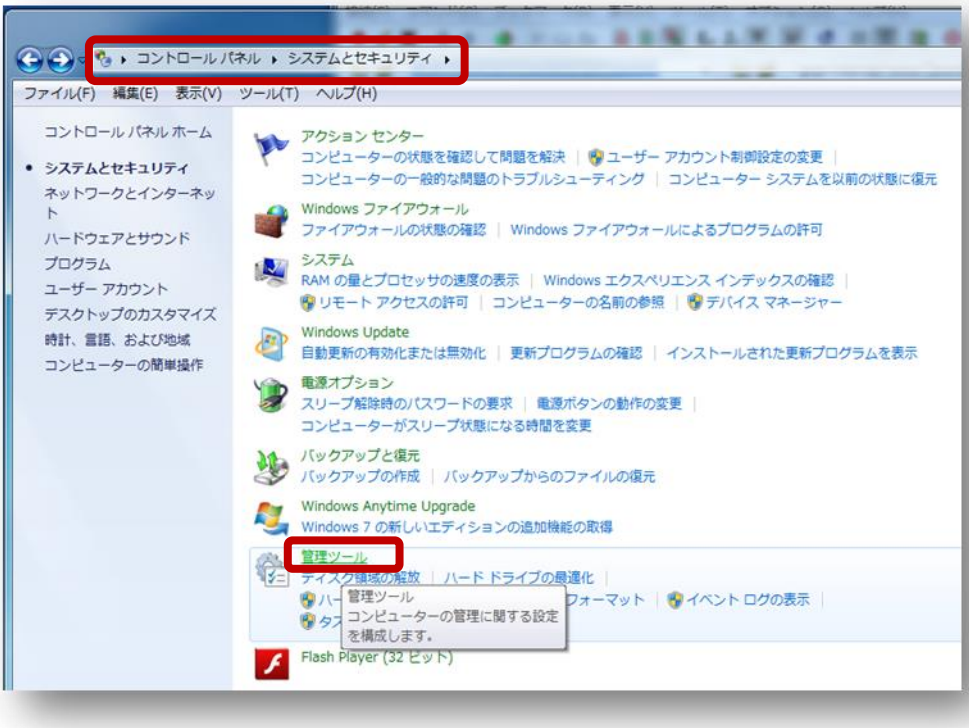


これで Protection Server のインストールは完了です。GXflow X Evolution 2 アプリケーションを使用するには、ライセンスの請求／登録が必要です。後述の「ライセンス請求」の手順を参照してください。

管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について

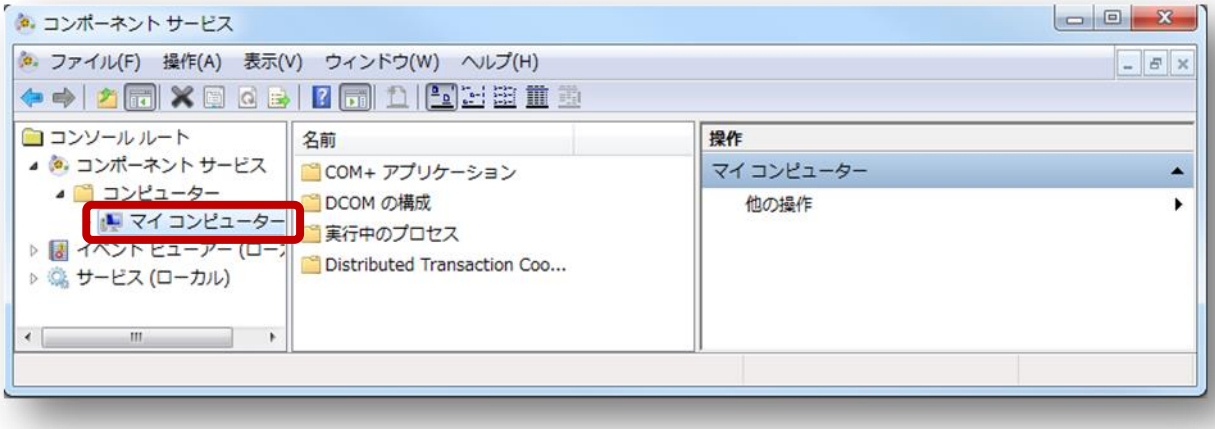
このセクションでは、「管理ツール」での Protection Server 用の設定手順について説明します。

1. GeneXus Protection Server がインストールされているサーバーのスタートメニューから「**コントロールパネル**」>「**システムとセキュリティ**」>「**管理ツール**」と選択します。



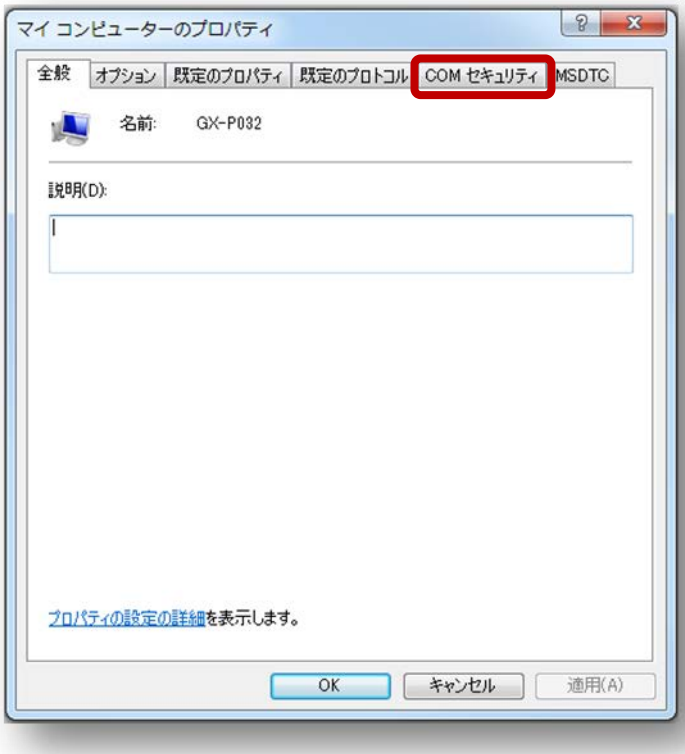
2. 表示されるウィンドウから「**コンポーネント サービス**」（ショートカット）を選択します。
3. 「**コンポーネント サービス**」ウィンドウの左側の欄から「**コンポーネント サービス**」ノードを展開し、さらに「**コンピューター**」ノードを展開します。

次のような「**マイ コンピューター**」ノードが表示されます。



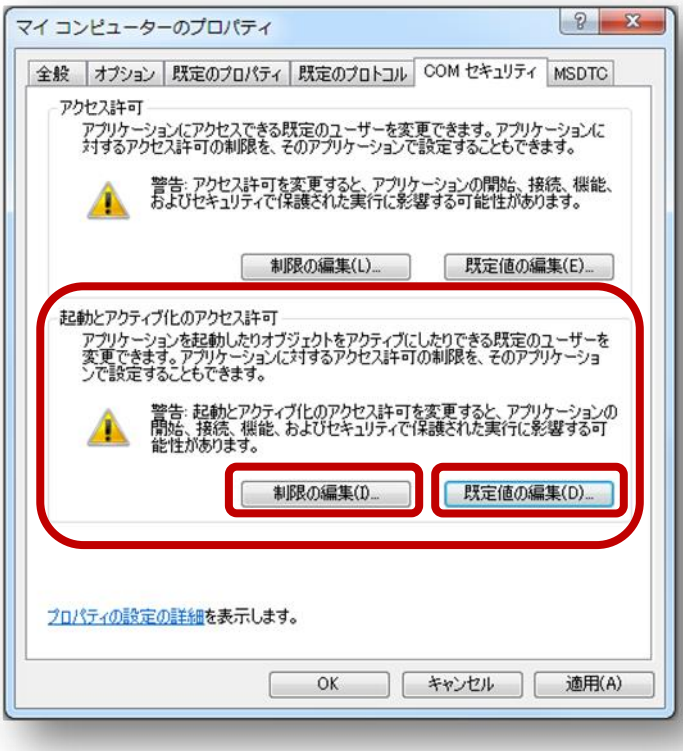
4. 「**マイ コンピューター**」ノードを右クリックし「**プロパティ**」を選択します。

次のような「**マイ コンピューターのプロパティ**」ウィンドウが表示されます。



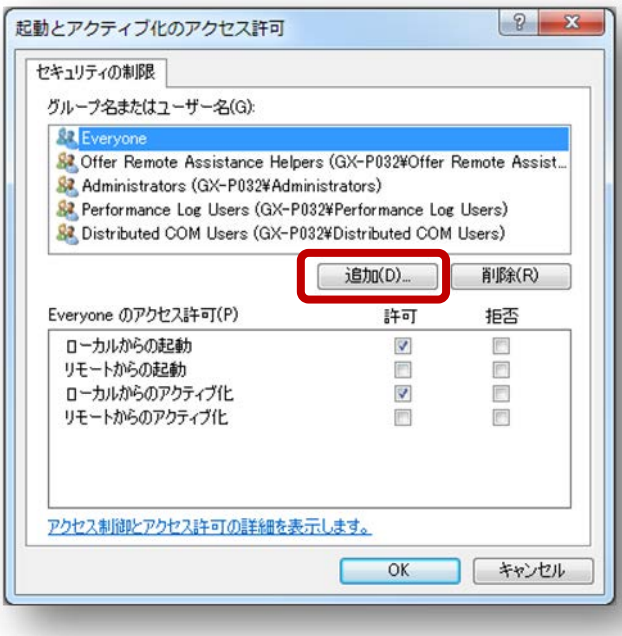
5. 「**COM セキュリティ**」タブをクリックします。

次のような「**COM セキュリティ**」パネルが表示されます。



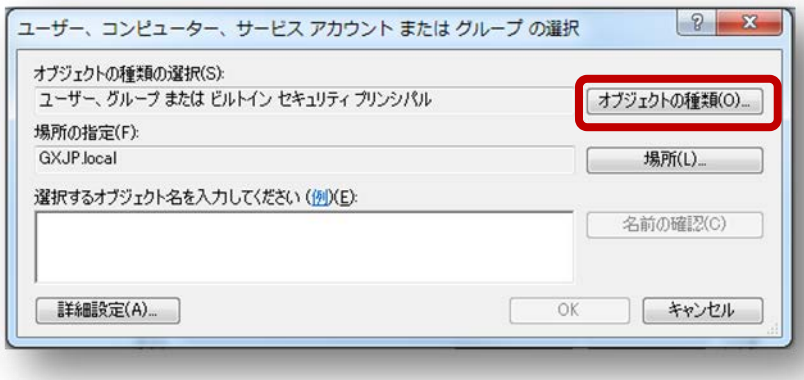
6. 「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」セクションにある「**制限の編集**」をクリックします。

次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。

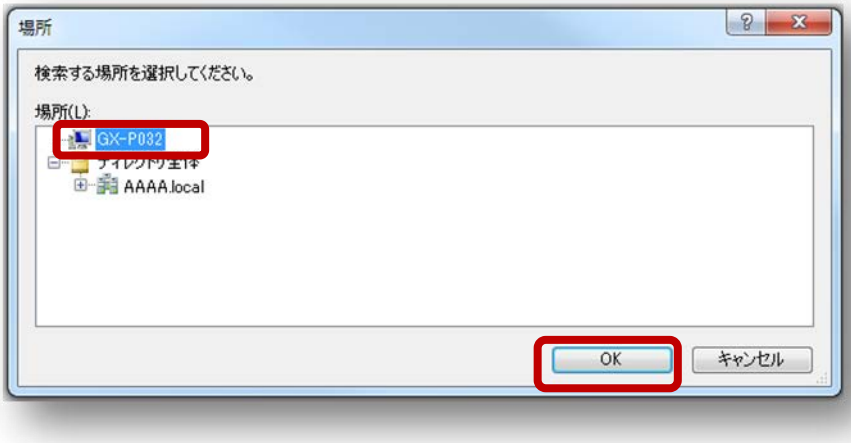


7. 「**追加**」ボタンをクリックします。

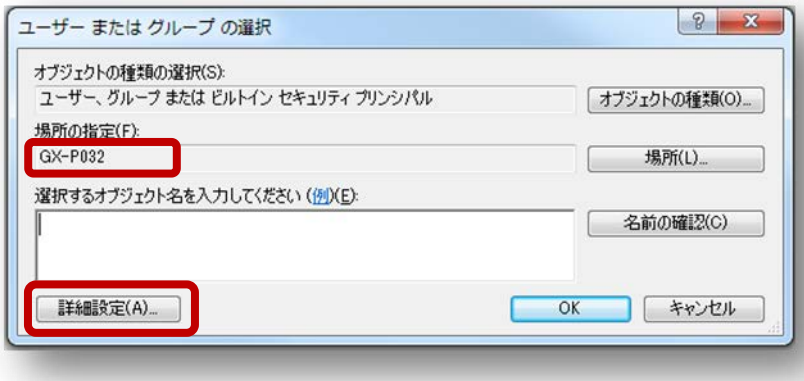
次のような「**ユーザー、コンピューター、サービス アカウント または グループの選択**」ウィンドウが表示されます。



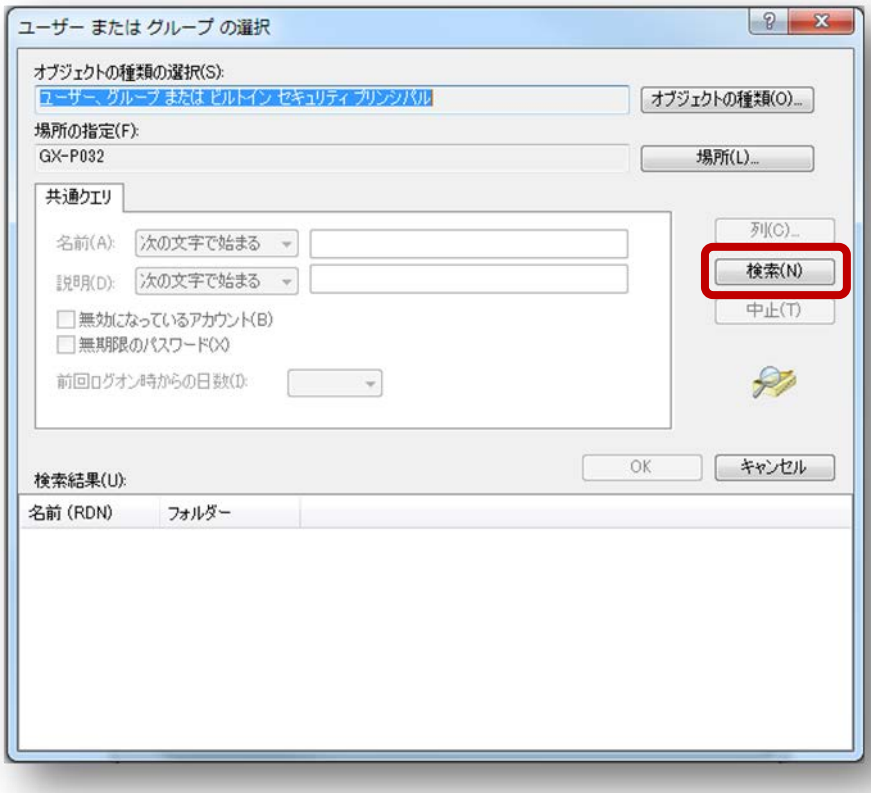
8. 次のような「**場所**」ウィンドウが表示されたら、GeneXus Protection Server がインストールされているコンピューターを選択し、「**OK**」をクリックします（下図の例では「GX-P032」という名前のコンピューターに GeneXus Protection Server がインストールされています）。



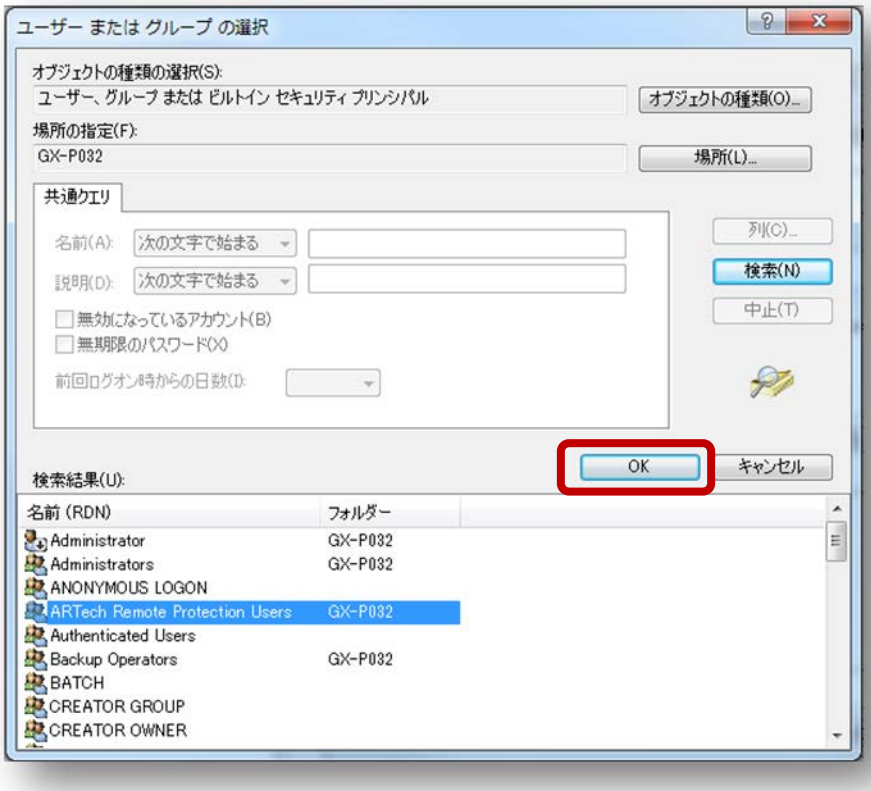
9. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウが表示されます。「場所の指定」フィールドに手順 8 で指定したコンピューターの名前が表示されていることを確認し、画面下部の「**詳細設定**」をクリックします。



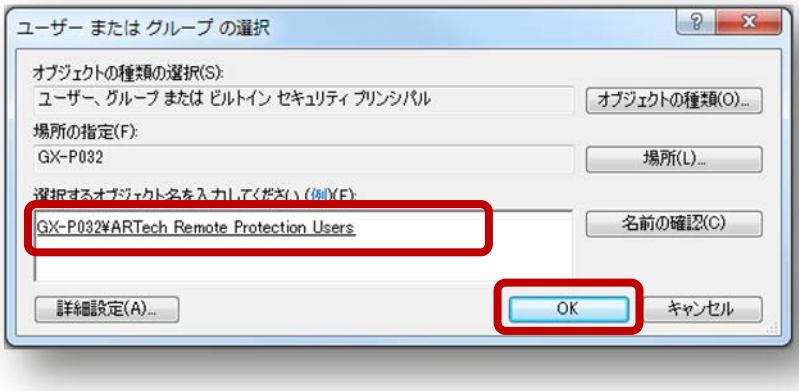
10. 次のような画面が表示されます。「**検索**」をクリックします。



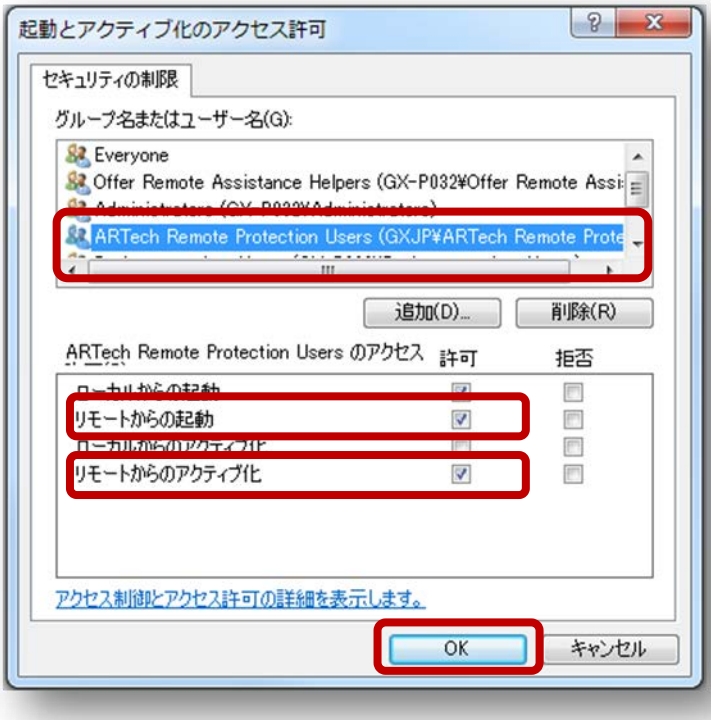
11. 画面下部に表示される検索結果から「**ARTech Remote Protection Users**」を選択し、「**OK**」をクリックします。



12. 次のような「**ユーザーまたは グループの選択**」ウィンドウが表示され、画面下部の「**選択するオブジェクト名を入力してください**」のフィールドに「ARTech Remote Protection Users」と表示されていることを確認してから、「**OK**」をクリックします。

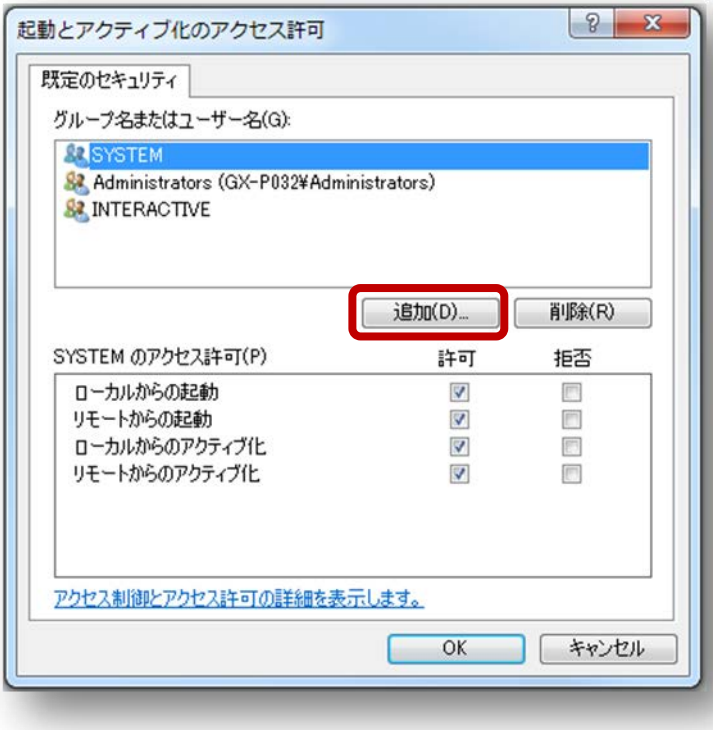


13. 次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。「**グループ名またはユーザー名**」の一覧から「**ARTech Remote Protection Users**」を選択し、画面下部の次の項目の「**許可**」のチェックボックスを選択します。
    - リモートから起動
    - リモートからのアクティブ化

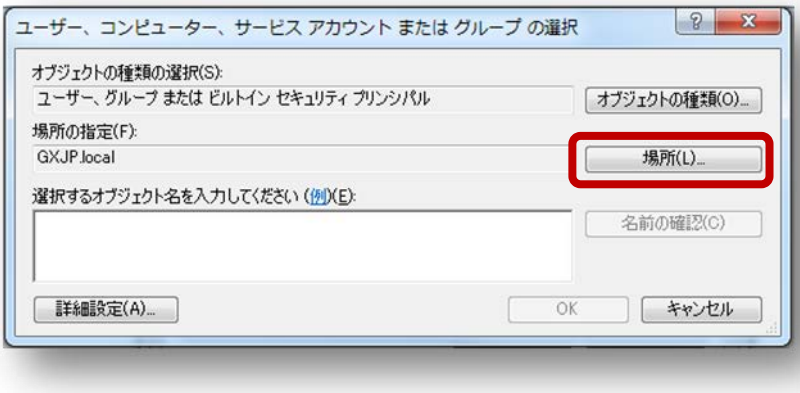


14. 「**OK**」をクリックします。手順 5 の画面が表示されます。「**既定値の編集**」をクリックします。

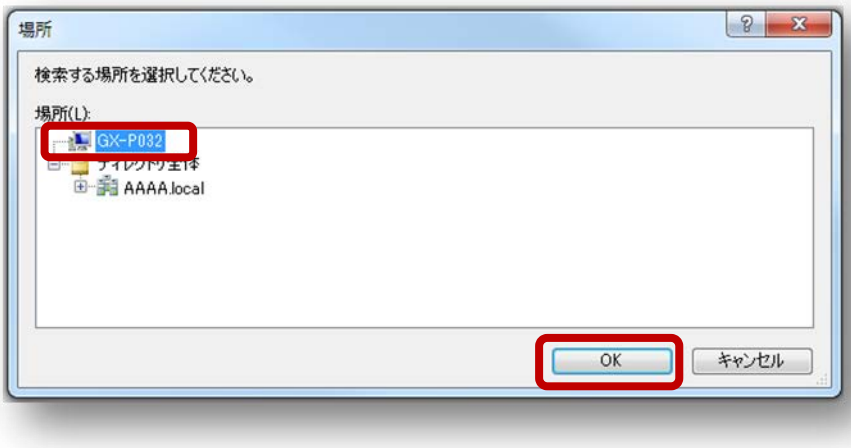
15. 次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。「**追加**」をクリックします。



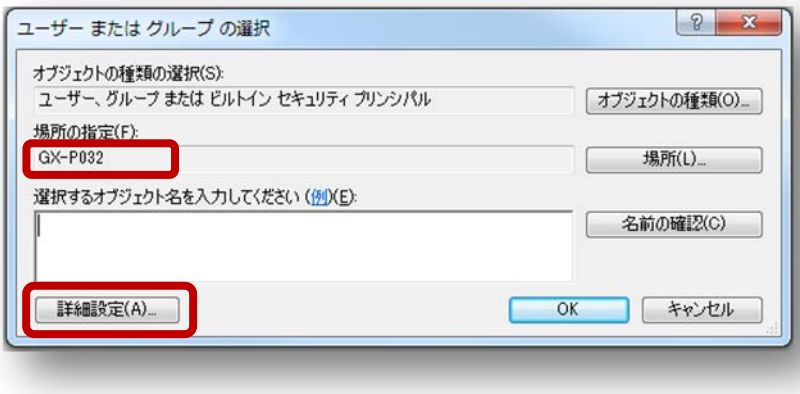
16. 次のような「**ユーザー、コンピューター、サービス アカウント または グループの選択**」ウィンドウが表示されます。画面右側の「**場所**」をクリックします。



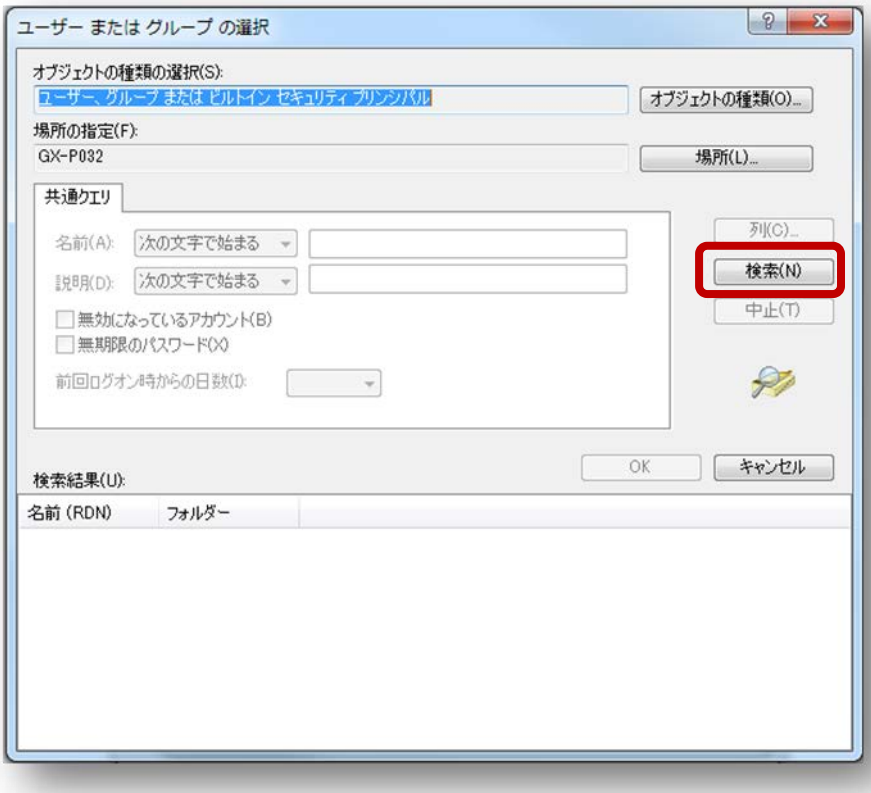
17. 次のような「**場所**」ウィンドウが表示されたら、GeneXus Protection Server がインストールされているコンピューターを選択し、「**OK**」をクリックします（下図の例では「GX-P032」という名前のコンピューターに GeneXus Protection Server がインストールされています）。



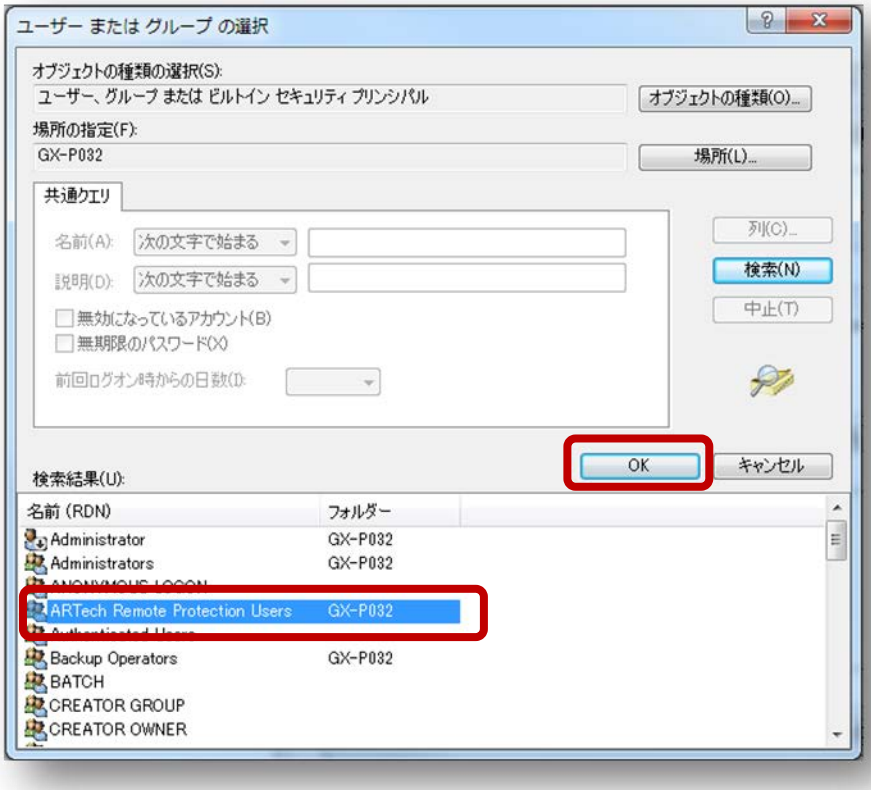
18. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウが表示されます。「場所の指定」フィールドに手順 17 で指定したコンピューターの名前が表示されていることを確認し、画面下部の「**詳細設定**」をクリックします。



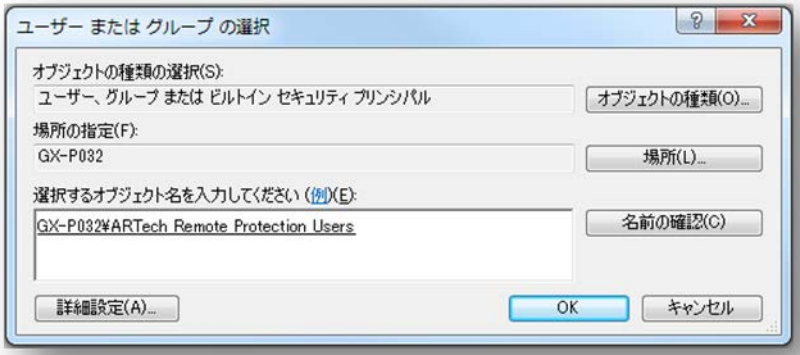
19. 次のような画面が表示されます。「**検索**」をクリックします。



20. 画面下部に表示される検索結果から「**ARTech Remote Protection Users**」を選択し、「**OK**」をクリックします。



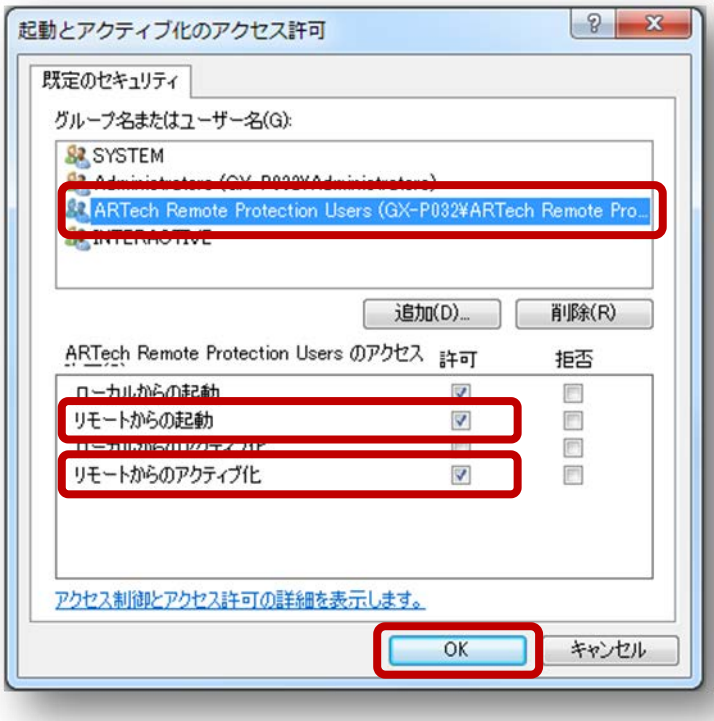
21. 次のような「**ユーザーまたは グループの選択**」ウィンドウが表示され、画面下部の「**選択するオブジェクト名を入力してください**」のフィールドに「ARTech Remote Protection Users」と表示されていることを確認してから、「**OK**」をクリックします。



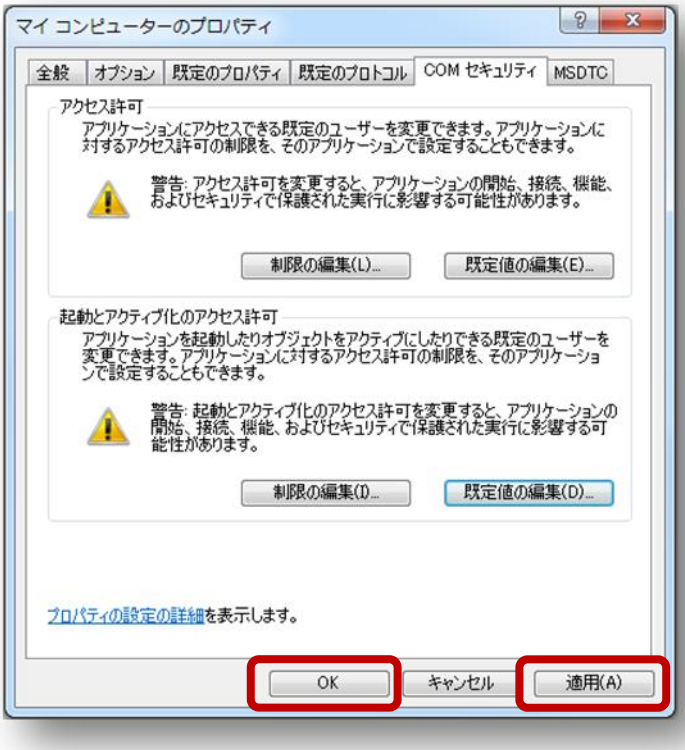
22. 次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。「**グループ名またはユーザー名**」の一覧から「**ARTech Remote Protection Users**」を選択し、画面下部の次の項目の「**許可**」のチェックボックスを選択します。

    ●リモートから起動

    ●リモートからのアクティブ化



23. 「**OK**」をクリックします。次の画面が表示されます。



24. 「**適用**」をクリックしてから、「**OK**」をクリックします。
これでクライアントユーザーのアクセスが許可されます。

参考：この書類では Windows 7 を例にした手順を記載しました。その他の OS をご使用の場合は、画面の内容が異なります。コントロールパネルの名称および設定方法については、お使いの OS のヘルプを参照してください。

トラブルシューティング

ネットワークプロテクションの設定についてご不明な点がある場合は、「**問題追跡システム**」に問題の詳細を登録してお問い合わせください。「**問題追跡システム**」は GeneXus Japan の Web サイトからアクセスすることができます。